京城日報
本紙定價並廣告料金
一部金五錢　一ヶ月金九十五錢　三ヶ月金二圓七十錢　六ヶ月金五圓三十錢　一ヶ年金十圓六十錢
廣告料　五號活字一行金一圓　特別二圓
發行兼編輯人　泥谷良次郎
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通二丁目　合資會社京城日報社
電話長六千九番二　振替京城三〇〇番

華盛頓會議

飛行機母艦制當協定

＝日本は八萬一千噸＝

【華盛頓電報】海軍委員會は米國全權の提案に係る飛行機母艦の制限に同意し協定し英米兩國に對しては各十三萬五千噸日本に對しては八萬一千噸を割當つる事になり居れり

大統領國務卿軋轢

日本々土包含可否問題

ヒューズ氏或は辭職せん

【紐育電報】ウオールド紙華府特電によれば國家聯合案及四國協約に日本本土を含むや否やにつき白耳義と國務卿ハーヂング氏とヒューズ氏の間に激しき軋轢を生じ居れり加之潛水艦制限に關する佛國の頑強なる反對に對しヒューズ氏は困難なる立場に陷り辭職すべしと期待されつゝあり

ヤ線振當決定

【華盛頓電報】日米協約より取り除けられたるヤップ島經由電線振當規定のため國務卿ヒューズ氏は三十一日突然日佛英の關係國代表者を召集し公式會議を開きヤップ、ガム線を米國に、上海線を日本に、メナド線を和蘭に振當てを決定せり以上は關係國間の條約となるべし尙日本と支那は右線に關し更に協定すべしと

日本全權歸朝と船室約束

【華盛頓電報】華府會議が約二週間以內に終結を告ぐべき事を見越し日本全權は來る十三日桑港出帆の天洋丸に船室を約束せり

聖上陛下御近狀

御機嫌極めて麗はし

御健康日に佳良に向はせらる

【葉山電報】葉山御用邸に御靜養中の天皇皇后兩陛下には御機嫌極めて麗はしく殊に聖上陛下には御健康日に佳良に向はせられ毎朝七時には御起床あり御食事も平常に御變りなく御嗜好の品も召上らせられ午後一時よりは侍從侍醫を從へさせられ御內苑を三十分乃至一時間ほど御散歩遊ばさる尙年末三十一日午前十一時半池邊侍醫頭拜謁仰付けられたるが御體重も加はされ居るより侍醫頭はお喜びを申上げて退出せり又皇后陛下には殊の外にも御健勝にて終日御讀書を遊ばさる斯くて兩陛下には芽出たく大正十一年の元旦を御迎へ遊ばされたり元日には攝政殿下行啓相成り年頭の御挨拶を言上遊ばさる筈にて兩陛下には樂しみに御待ち遊ばされ居れりと拜承す

梁氏嚴罰布告決定

【上海電報】廣東大總統は梁士詒氏が曩に交通系の倒政運動に關係せる事實を指摘し民國の法律に徵し嚴罰に處すべき旨を布告するに確定せりこれ梁士詒內閣の南方擾亂策の發見を懲せんとするものなり

今や自覺すべきの秋

日本の使命は重し

內務大臣　床次竹二郎

歐洲大戰は二の大なる會議に依つてその終局を結ぶこととなつた則ち一つは巴里會議であつて他は今回の華府會議である巴里會議に於ては講和條約が締結されて平和の克復を見たのであるけれども巴里會議の一大結果であつた國際聯盟に至つては未だ十分に世界の平和を確保する迄に具體化して居なかつた殊に米國は國際聯盟に加入して居ないで多少未解決の問題を殘つて居たのであるが今回その米國の提唱で華府會議が開かれ海軍縮小と共に四國協約なるものが締結せらるゝに至つたので世界の平和は事實的に確定さるゝこととなつたのである。此二會議は吾人に取つて大なる意義を有するものであるが今この新時代を劃すべき兩會議に於ける我國の地位を見るに巴里會議に於ては我國は五大強國の一に數へられて居る、五大強國の一に加はることを得たことは我國民は非常に之を誇りとした。然るに其後幾何もなくして今回の會議を見たのであるが此會議に於ては更に一躍して三大強國の一たる資格を有するに至つた譯である素より三大強國といふ特殊の名稱は存して居ないにしても誰云ふとなくそう云ふ言葉が使用され實力の上に於ても自然に殊に東洋に於ては平和確保の上から我國は重要なる地位を占むるに至つたのである我國の地位は極めて重大であつて東洋に於ける其使命は益々重きを加へた次第である此の事を思ふ時我日本民族は猛然自覺する所あつて大に自ら任じ大に自ら恥んぜなければならぬと云ふことを痛切に感じる。國際間の問題に就ては世界的正義に基づいて堂々たる態度に出づべきであり、國內の政治に就ては時代の趨勢を察して立憲政治の眞の發達を圖るべきであつて徒らに守舊に陷つて進歩を解せざるが如きは余の與みする能はざる所である。

されば とて過激なる外來思想に盲從して破壞的行動に出づるが如きは國民として最も慎まねばならぬことである。夫の過激主義の如きは時勢に鑑み國民の公敵として斷乎として之を排斥せなければならぬ。

時局は重大である國民は自覺しなければならぬ。徒らに不平を唱へ他人をのみ非難すべき秋ではない各人自ら國家の重きに任ずべき時期である、大正十一年の新年を迎へて余は特に此感を深くするものである。

日々新　大庭生

大庭軍司令官試筆

產業振興への要諦

唯だ人事を盡すに在るのみ

總督府殖產局長　西村保吉　［承前］

產業に關する新興の氣運漸く萌きつゝある朝鮮の今日に於て、叙上の如く國費及地方費の施設が十分之に順應することを能はざるは、主として財源の乏しきは一般の資力が不十分であり、其事業が萌芽であり幼稚であるが爲

租稅の負擔力が

甚だ薄弱であると言ふことに歸着するのである、擔稅力が薄弱であるから財源が乏しい、財源が乏しいから十分な施設が出來ない、十分な施設が出來ないから產業開發の事業が遲々として進まぬ。產業開發の事業が遲々として進まぬから擔稅力が發達しない。互に原因となり結果となつて、各六常の辻に彷徨して居るのである。左らばと言つて產業に關する事業の爲に無理な增稅をすることも出來ない。要は中央政府の援助と現在民度の許す範圍に於て財政の規模を定め、其範圍內に於て其幾何の部分を產業の費用に當てるかを定め將來民度の向上擔稅力の增加に伴ふて漸次に之を擴張するの外はない。本府及地方廳に於ては、言ふ迄もなく事の財源に關すると否とを問はず事情の許す限りに於て一切の手段方法を盡し、最善の努力を爲すべきことは勿論であるが、元來產業の主體は言ふ迄もなく關係當業者であつて當業者の自覺、智識、技術、才能及努力の如何は產業發達の生命である假令官廳方面が如何に努力するとしても當業者が自己の業務に無自覺でありて其の業務に對して十分の理解がなく、進んで

改良發達を計る

の意思がなく假令其意思は有つても、どういふことをどうすれば善いのであるか、其方法手段も分らず、假令分つても努力して之を實行しやうともせず、徒らに舊來の因襲を墨守して苟且偸安に流れて居るやうなことであつては、官廳方面の千百の施設も徹底其好果を奏することが出來ない。之に反して當業者の方面に於て能く時勢の推移を理解し、自己の業務に發奮して熱心に其の業務の改良發展に留意し、其改良發展の爲に必要なる一切の方法手段を熱心に研究して、其利害得失を講め傍ら智識技術の修養に努め、苟くも改良上必要なる事項は着々之を實行して徹底的に其利益を收得するの努力と決斷があるならば、假令官廳方面の施設に不備不十分の點があつても、地方各種の產業は着々進步發展することが出來る。

計劃要項が決定

せられたのであるが、其の決定は概ね抽象的であつて、一々具體的事項まで掲げてはないが其は各地方の事情に顧慮せしむるが爲、實行方法を知つて施設の方法を考慮した結果であつて大體に於ては既に定まつて居るのである。本府地方廳其他地方行政機關は相協力して鐵意之が實行に努力すべきことは勿論であるが、本部能の實を收むか否やは實に民間當業者の協同的努力に俟たなければならないことは言ふ迄もない。朝鮮の產業は既往十年間大に進步したとは言ふものゝ之を大局より見れば僅に端緒を開いたに過ぎない。其朝鮮は天然の資源も豐富であり、開發すべき餘地は綽々たるものがある。今後出來得る限り之を開發して當業者の收益を增加し、一般經濟力の向上及民衆生活の安定を圖るは、朝鮮の將來に對し最も緊要なる事であつて、吾人は官民一致、各其最善の努力を爲さなければならぬ。

朝鮮產業の發展を促進するには一致協力して各當業者の反省と努力とを望むのである。朝鮮產業の大に進步すべくして而も未だ進步せざるは、天惠の足らざるが爲に非ずして人事を盡さゞるに依るのみ（完）

生を全ふするの

道を講ぜずして政治や道徳の論議に耽つて居ても、決して人生の幸福は得らるゝものではない。衣食足りて禮節を知るのである、衣食足りて始めて生の有難味を知るのである。人間はどうしても生きなければならない。

華府だより

華府特約員　土肥常温

其內にと後は皮肉に笑を交へて記者連を笑はしながら他の全權に讓る處は德川公の面目を現して居る、公は支那問題や海軍問題を質問する時にも少々無理だが外國記者連に往々がもす院長且つ全權だと云ふので色々聞くが假に『アイドントノウ』の一點張り其の內に他の全權が時間に合つて助けつけると『サア私は之で引下りませう』と拍手でもしながらサッサと退場する手際は公式の際でも全權は流石商賈人で外交問題に掛けては何なりと相當の意見を與へて轉をほしがつて居る連中には受けがよい、小柄ではありニコ／＼顏で而も少々緩まる口振でエーエーッと云へる所が英語を話す日に口癖々くにエーエーッ『エーユシー』を選ぶる聽眾ものが頗る三分間の會見にも廿八『ユウシー』を出したと勘定をして示來ユウシー全權など陰口を利いて居る。

此三全權は何といふても中心人物だけあつて最も多忙を極め懸命に努力して居る譯は確に見える三全權にもバルフォーア氏やブリアイアン氏などの記者と會見するやうに政治家風の樣子の見へないのは如何にも殘念だ院長や局長の肩書で內訌にしいのは新聞記者操りの無勝手多事官と加藤全權の口となつたり耳となつて居る京城に於ても稀だらう。

出淵參事官は毎日外國記者連が會見を求めて來るのを嫌ふ顏もせずイヤ出淵參事官は眼尻の具合から見ると何うあつて來ても強ひと云ふ事の出來ない顏の持主で相手も怒る事が出來ない。背は分を有しながら背の調合に大きな頭を後方に擦しながら見上げるやうに外人と要領よく接近して話をして居る外人連にも却々受けがよい樣し最も適任と思はれる。

杉村參事官は見れば利かぬ氣が顏中に現れて居る加藤寬治中將を始め大佐級の山梨末次長野上田野村の五人は流石海軍々人だけあつて山梨大佐の除いた他の同人は堂々たる體格を何れも背服に包んで米國提案の數字の檢査や我提案の數字の擬定に頭を捻つて居る。

現在では最も頭を惱まして居る陸軍問題に就いて廣田少將が何れも陸軍問題に入つて居ないので外の見た眼は手持無沙汰その他の隨員や囑託連は手持無沙汰そ數十名の隨員や囑託ないか此後今の所陸軍問題に入つて居ないので外の見た眼は手持無沙汰そうに見へる他の數十名の隨員や囑託は寧ろ大使館の宮で持ちによつて忙しいのもありサウでないのもある。

全權事務所では鑑定は大抵下の食堂で日本料理を喰ふ居る食堂會議も却々興味があり色々な談話が交換となつて居るらしい加藤全權は獨りポッネンと相變らず例の米國製のブン とビールの代りに湯を飲んで居る傍ら飲料を飲んでは同じ日やうな氣がする。

私設全權とも思しき政友會の山本條太郎氏政友會の三井彌四郎原氏の三代議士若い顏ぶれで何れも嗾家を選へた館だけ政黨も大事だと云つた館が見へる之等代議士の諸氏は議會に間に合ふ樣大抵今年中には引揚げるであらう。

高橋總理大臣府會議の關係で外相も取代へて居る中で加藤新次郎內田外相川原山本の諸氏が何れも本國の意向を向へ通しての處や調査する處を運び仕上て今から眼に見へる館の事であらうと。

小幡公使を除いては何れも支那に一本參り立つた館が多いが何れも抵抗に如何にも張りがないと云つた館でサッサと席を迎んで居る。

國民的試練の首途（上）

華府會議と經濟界の影響

鮮銀總裁　美濃部俊吉

華府會議の結果に海軍制限が實施されて之に伴ふ世界及日本の產業界經濟界の影響如何經濟界如何變化如何と言ふ問題は大體に於て防ぐべき結果を齎すものと觀察することが出來る海軍縮少が提起せらるゝに至つた主要理由に就ては

人類の福祉

安寧を齎らす上より何人に於ても異議の無いところで此の原則に對しては何等の反對も有る可き筈が無いのである而して軍艦製造のために政府に於て若し財政上の餘裕を生ずる場合有りとせばその餘裕を消極的に國民の負擔を輕減せしむるために使ふか或は積極的に產業を開發する爲めに使ふかの問題に逢着するのであるが其何れにせよ經濟上より見れば良好なる結果を齎すものと斷ぜざるを得ない、斯くて今後列強は軍備の競爭より離れて必ずや盛んなる經濟的競爭に入るであらう國民の負擔の輕減は誠に

一日を緩く

すべからざる急務であるが左りとて政府が財政の上に於て直ちに起業施設のために鉅額を投ずるの餘裕も之に否るものでない但し今回の海軍制限はその主力艦に對するものであるが補助艦に對しては尙未定であるが故に今後海軍政策の如何によつては製艦問題に於ては尙上の財政上の餘裕が生ずるや否やに就て豫測の限りで無い併し今假りに生ずるものとすれば之に必然の結果として伴ふものは海軍職工の失業問題であるが其の成り行きに依つては或は憂慮たる結果を生むかも知れぬ勞働問題失業問題に關しては歐米先進國は既に幾多の苦き經驗を嘗來つたのである、其の點に於ては

日本は從來

平和であり幸に職であつた、軍備縮小の結果海軍職工の失業は止むを得ざる事であつて失業問題を今更の如くに驚く必要は少しもない、冷靜に失業者救濟方法を講じる事が緊要である、獨逸の如きは講和條約の結果彼の大規模の軍器製造工場を悉く生產工場に變へて失業職工に振り向けて居つた熟練工を平和產業工場に就業して居つた熟練工を生產工場に振り向けて良好の結果を得て居る、獨逸のこの失業者對策は大いに學ぶ處があると思ふ、我が海軍職工も又失業問題の解決は獨逸の樣に生產工場に向けらるゝ事になれば失業問題の解決は容易にせらるゝと共に經濟上からも斯くして失業職工を就職せしむる事となり、而して軍備縮小に由る剩餘の財源を以て之が資源を何れに得るかと云ふに之は、恐らく生產工業の事業の振興となり大いに良好の結果を齎らすもの、と信じて居る。

半島の煙草專賣（上）

生產と供給上の改善に就て

總督府專賣局長　青木戒三

朝鮮に新に煙草專賣を施行したる目的は謂ふ迄もなく歲入の增加に外ならぬのであるが、之は實に多年研究せられたる問題であつて只朝鮮の經濟事情、民度、習慣等凡ゆる情況が未だ其機に逢着しなかつたのである、處が最近此等四圍の狀態が財政の事情と相俟つて漸く實施の機運を促進したのであつて、一面から云へば朝鮮財政の獨立が夫れ丈け遲延したと謂ひ得るのである。

耕作者は生產上の安定を得た

煙草專賣に關する政府の大體の方針は、朝鮮に產する原料葉煙草を以て朝鮮に於ける需用を充すのみならず其餘力を以て外國に輸出せんとするのであつて只々品質の關係上朝鮮に於て到底生產し得られない特殊なる極少の葉煙草のみ內地又は外國から移輸入を仰ぐ次第である。此を以て農家に取つては耕作者の經營上又は最も生產の安定を得た譯である。即ち從來に於ては其耕作方法幼稚なるが上に煙草に對する知識に乏しく時には中間仲買者流の爲めに左右せられ外の價格に甘んじて不利益の價格に委ねたる結果をも、遂に此等術策に服從せねばならなかつたのであるが、今や專賣制度の實施に依り耕作方法を指導し品質の改善を促すと共に耕作者の收益を確實ならしむる事となつたのである。

朝鮮の私設鐵道

內鮮人協同の努力に俟つ

總督府鐵道部長　弓削幸太郎

鐵道の普及が朝鮮半島の統治並に產業上偉大の貢獻であることは更めて云ふを要せぬ所であつて、總督府は財政の許す限り年々其敷設に努めて居るが、必要な線路全部を敷設して其完成を期するまでには前途猶遼遠の感がある、故に私設鐵道の敷設を獎勵し年々補助金を支出して居るのであるが近來に於ては一般の趨勢に鑑み政府と民間と相俟つて鐵道の完備を期せねばならぬ。總督府は夙に之を認めて補助金の交付等私設鐵道を保護し、最近に於て交通機關の普及を獎勵し、殊に私設鐵道の助成に關しては或は補助率を高め、補助期限を延長し、或は補助法を制定して補助の趣旨を周知せしめ、また各種の便宜を與ふる等特に之に力を致して居る。叙上の普及政策の結果は、歐洲大戰の影響に依る財界の景況と相俟つて大正八年以來續々に其發達を見、今や朝鮮私設鐵道は既設線二百卅餘哩に上り、別に未開業の免許線千四百五十哩を算する異常の發達を示した、而してこの鐵道會社の公稱資本額は一億三千餘萬圓（拂込金二千四百餘萬圓）別に社債及借入金四百五十萬圓の多額を算する現狀である。戰後の財界の變動は其事業に多少の打撃を與へ、營業線に在りては貨客の減少に依りて豫定の收入増加を見ず、未開業線にありては資本拂込の困難に依り工事資金を得るに困難を生せしも、昨年中頃よりは財界恢復の曙光を見、營業線に於ては營業成績も漸次良好に向ひ、財界の變動の影響も殆ど去つて營業成績も良好の際なれば、著しき好成績を示すに至らざるも、逐年良好に向ひ、財界の變動の影響も殆ど去つて營業成績も漸次向上の趨勢である。

最近の私設鐵道狀況を見るに、昨年中に開通せるものは、中央鐵道會社の慶北線中大邱浦項間十八哩七分及慶東線慶州蔚山間十四哩一分、西鮮殖產鐵道の沙里院長淵間八哩四分、朝鮮森林鐵道の下碣隅里新乫坡鎭間四十餘哩を除く外に中の線路は、金剛山電氣鐵道會社の鐵原金化間十八哩餘、南朝鮮鐵道の天安溫陽間十哩、京南鐵道の天安長湖院間二十六哩にして、松汀里光州、光州潭陽間は今春頃に開通の見込である、尙既に工事施行認可を經、工事準備を進めたるものは、朝鮮中央鐵道の慶州蔚山間四十四哩、南山東萊間三十五哩及南朝鮮鐵道の光州麗水間十三哩あり、今年中には南朝鮮鐵道の馬山方面よりの工事、森林鐵道の咸興方面、西鮮鐵道の銀栗方面も之が着手すべき豫定である。

而して營業成績も開業線々々の際なれば、著しき好成績を示すに至らざるも、逐年良好に向ひ、財界の變動の影響も殆ど去つて、最近一ヶ年の旅客人員は百二十餘萬人、貨物噸數三十餘萬噸であつて、その收入は旅客に於て六十萬圓貨物に於て四十八萬圓を數へ前年同期に比し旅客收入三割三分餘貨物收入四割三分の增加を示した。最近の私設鐵道の進步は上述の如く異常の發達を示してゐるが、朝鮮の鐵道營業線二千餘哩を有するに比較するも、內地の開業線の僅少な隆盛時代と稱すべき程多大の逕色があれば、其發達は之を將來に俟たねばならぬ。總督府に於ても現に內地は鐵道が未だ其完成に至らざる。

大連會議結局中止か

【大連】華府派遣の外務部と齊多政府側の折衝に就ては當初より成功を危ぶまれ居りしが松島外務部長に依りて纏まるべしと豫想され我政府も亦同様の見解なりしとは松島外務部長に於ても略ぼ推測せらるゝが萬一の成功を期待し齊多政府の要求に關する期待もあり雙方數ヶ月に亙る交渉は依然として一向埒明かず其まゝとなりつゝあるが太平洋會議の前途も明白となり齊多政府の本體が勞農政府なること露骨に公表さるゝに至り加へて勞農政府とする以上は誠意を認むべき筈なきより近き將來に於て大連會議は中止の已むなきに至るべしと觀測せらる因に齊多政府の代表者マルクスキは目下ヤマトホテルにあり氏は我政府の承諾なきより痛しく推測せらる氏は機會を待つものと見え近く諸士なるが政府に於ける外交家として知名の士なるが政府の命を受け本年一月チョーク委員と九月末齊多に入り同政府員と共に大連會議に關する事務に當りたりと

北行列車中より

田邊記者

三十一日午後四時二十分平壤を立つた寝臺列車は嚴寒の鐵路をひた走るに走つてゐるまだ元日の光りは南滿洲の地平線上に汽車が驀天へ向く前揚めることでせう

謹賀新年

旅行中に付き年始の禮を缺き申候
京城府南山町三丁目三番地　市川□□

內地旅行中に付年賀缺禮仕り候
本町四丁目　山田幸七

職業◎日收三圓　特約店大募集
三榮總本店

保險金受領廣告
東京動產保險株式會社
同社代理店……大正十年十二月二十日……保險金受領候也
京城黃金町二丁目百九十九番地

清州　高田伊平

清州　吉原治三郎

忠北清州西町
朝鮮自働車運輸株式會社　電話四三番

京城專賣支局清州出張所　所員一同

清州　宗安憲兵隊長　菊地憲兵隊副官

清州本町二丁目　ホヘト亭
御料理　本多繁造　電話六三番

清州本町五丁目　米穀木炭商　植野精米所　電話五九番

清州西町　米穀商　高見辨藏　電話四四番

清州驛前　氷穀商　澤田藤兵衞商店　電話　番

清州外在里　米穀商　藤井廣吉商店

清州郡守　山崎駿二
清州郡廳　財務係
同　農務係
同　水利組合

忠北道清州
清州服部自働車部　電話二二番

朝鮮運輸倉庫株式會社
專務取締役　岡田七藏

清州本町　會席料理　東京生そば
桃葉　電話一一〇番

全北裡里
株式會社　大橋農場　電話長三九番（事務所）　電話四〇番（主任宅）

全北裡里　野村清彬　電話七〇番

裡里幸町　支那料理　萬利樓　電話一六〇番

裡里榮町　渡邊呉服店　裡里支店　電話二五番

全北裡里　土木建築受負
木下丑松　電話一四〇番
森次春次郎　電話一一九番
朝霧淺之亟
河野慶吉　電話一七六番
工藤重次郎　電話一五二番

玉の浦內
藝妓　六助　玉六　仙吉　政次　米次　秋次　駒奴　金時　ぽんた　まえ　たづか　たけて

萬利樓內
仲居　松子　春子　清子　梅子

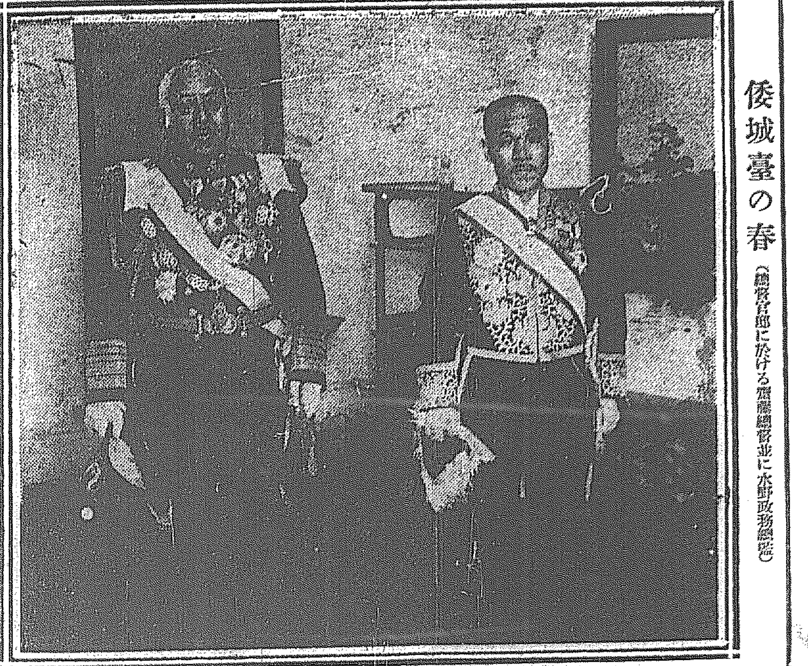
裡里榮町　生魚商　蒲鉾製造
久保亮二　電話一三三番

裡里公立尋常高等小學校
職員一同

裡里榮町　呉服太物商
横田卯之助　電話二四番

醫學士　福岡醫院
福岡榮太郎　電話一八番（醫務室）　電話一三番（自宅）

裡里舊市町　土木建築受負　材木商
木村喜次郎　電話一〇三番



倭城臺の春（總督官邸に於ける齋藤總督並に水野政務總監）

榮ある一九二二年の首途の日

常盤木の綠映ゆる 宮中の歳旦祭の御儀

攝政宮殿下には陸軍少佐の御正裝にて文武百官參列の中に御拜

大正十一年一月一日の宮中に於ける儀式は攝政宮最初の行事に在はしますが元旦の四方拜一、二、三の三日間に亘る歳旦祭は天皇の御親行あらせらるべき御儀につき行はせ給はず歳旦祭より行はせらるゝ攝政宮殿下には身心を淨めさせらるゝばかりなる未明御起床御潔齋を濟めさせられ陸軍少佐の御正裝に大勳位菊花大綬章を御佩用入江東宮侍從長御陪乘奈良武官長戸田同事務官以下供奉員を從へ東宮假御所御出門同四十分御參內綾綺殿に入御祭典の奉仕にて御祭服に御更衣侍從より笏を把られ祭典の御先導にて賢所內陣に御進ませらる是より先三殿は九條祭典長以下各祭典未明より出仕奉仕し午前六時四十分迄には宮內勅奏任官總代一人參集所に參集井上式部長官、西園寺同次官以下各式部官奏樂し次で奏樂裡に九條祭典長三殿を開扉し賢所皇靈殿には各折敷高杯六本立折櫃甘合酒瓶の神饌を供し神殿には洗米、酒、餅、海魚、川魚、海菜、野菜、菓、鹽水の十臺を供し畢つて九條祭典長進みて恭しく祝詞を奏し畢れば攝政宮殿下には賢所御前に進御拜禮あらせられ御玉串を供し御鈴を奉る（此の時內掌典をして御鈴を供せしめ給ふ）次いで皇靈殿神殿の御拜あり夫々玉串を奉り給ひて入御遊ばさる次いで奏樂裡に神饌を撤し畢つて御閉扉次で諸員退下茲に新歲最首の御祭典は御滯りなく終らせ給ふ

攝政宮殿下 賀詞を受けさせらる

早旦より海恭に至る間 御繁忙に渡らせらるゝ殿下

本日よりの拜賀式は攝政殿下出御御受けあらせらるゝにつき午前九時頃より皇族殿下〔以下皇族各殿下の御名〕各殿下より御年賀の賀詞を受けさせ給ひ畢つて正殿に臨御〔以下、大臣・元帥・各國大公使等の拜賀の次第〕[illegible]

二日祭

賢所皇靈殿御前 今二日朝も宮中に於ては[illegible]

〔天皇陛下の御近況を傳ふる記事〕[illegible]

の元始を 給ふ盛典

世一系の御國柄の 壽ぎ彌芽出度し

[illegible]

同好會第一回 印畫展覽會

京城寫眞同好會は一月二日第五回の例會を開き[illegible]

京城倶樂部歌留多會 [illegible]

平和な新年

瑞相に充ち滿ちた元旦の京城市中

[illegible]

官邸の春

海軍大將の正服を着用した主人の齋藤總督

[illegible]

斯様にお芽出度いことはありません

世界は改造の時に在り 改造は一歩々々成功す スミス氏語る

[illegible]

名刺交換會

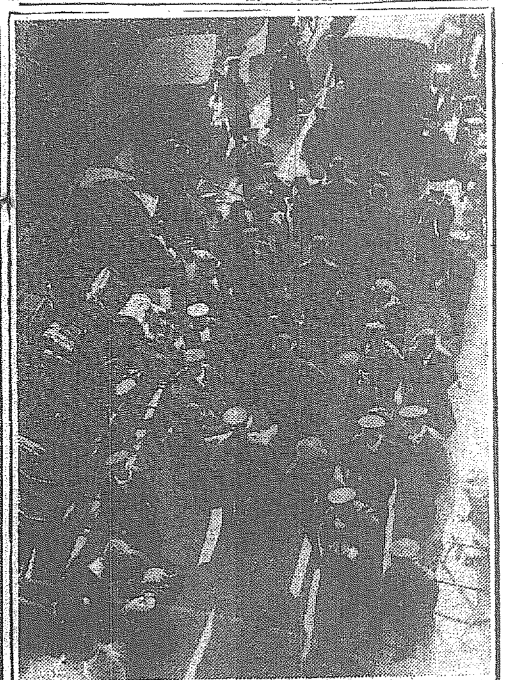
堂も揺く計りに渡邊さんの發聲で萬歲を三唱した

[illegible]

男の好い 荷の車か續く

南大門驛前から龍山方面まで蜿蜒長蛇の列

[illegible]



公會堂の名刺交換會

引續いて二日の拜賀式

各資格續々參內拜賀す

[illegible]

瑞祥ゆらぐ 各地の新年

仁川 [illegible]

馬山 [illegible]

清津 [illegible]

撫順 [illegible]

木浦 [illegible]

晋州 [illegible]

松の內の出來事

二日早曉 安國洞に强盜現る

短銃で脅迫して現金六圓を强奪す

[illegible]

帝國小學校長から 子福者保護案

三人以上の子福者には所得税を免じ女中費補助

[illegible]

飛行航續新レコード

エドワードスチンソン氏 二十六時間卅九分三十五秒

[illegible]

本社主催 臺灣視察團 けふ出發す

團員の方は必ず今朝午前九時迄に御集合下さい

[illegible]

人蔘湯

[illegible]

けふのメモ（三日）

[illegible]

本紙郵送讀者へ謹告

[illegible]

京城日報社販賣部

演藝案內

大正館 [illegible]

京龍館 [illegible]

浪花館 [illegible]

京城劇場 [illegible]

壽館 [illegible]

喜樂館 [illegible]

中央館 [illegible]

黃金館 [illegible]

浪花座 [illegible]

京日案內

[illegible]

古本 [illegible]

毛皮 [illegible]

謹賀新年 [illegible]

吾が同胞に告ぐ
國際心理を改めよ
代議士　尾崎行雄

今回の華盛頓會議は世界の平和、人類の文明進步上に一大寄與を爲したるものであつて我國に於ても之を機會として內治外交上に一大改造、一大發展を施さねばならないのである。殊に外交問題に就ては從來國內的の立場より一局部を論ずるが如き觀方を改めて世界の大局に眼を放ち新時代の國際交通に共進を顧らしめざる懷柔策を執らねばならないのである。然して予が年頭に際して特に茲に力說せんと欲するのは國際心理の改善是である。國家は本來人民の幸福を增進するが爲に存立してゐると恰も封建時代に藩侯が領內人民の幸福を增進するが爲に存立してゐたと同樣のものである。

然るに全國人民の幸福の爲には一國を數百に分割して藩侯に領有せしむるよりも寧ろ之を一政府の下に統一する方が善いと考へる者が多くなれば封建制度は茲に滅亡して全國一政府を戴く事になる。今日の國家制度も文明の進步及び時勢の變遷に應じて絶えず之を改善して行かなければ國家あるが爲に人民却て損害を被るが如き奇觀を呈する事が無いとは限らない。現に獨逸、露國の如きは之あるが爲に人民に利益を與へずして却て災禍を與へ其結果一朝にして忽然滅亡した。其に國家の施設を企圖するものは之をして常に人類の幸福增加の機關たらしめなければならぬ。人類多數の不幸を釀生すべき行動を繼續すれば如何なる國家と雖も必ず滅亡するものである。然るに近世文明進步の結果として全世界は古昔の數百分の一に縮小し有無相通じて共存共榮の必要を生ずるやうになつた。それが爲め國際關係は全く一變し他を苦しめて獨り利する事は出來難くなつた。獨逸露國の沒落が全世界の不景氣を來し且つ繼續せしむる如きは其の一證である。列國皆右等の諸國を援けて一日も早く復活再生せしめなければ到底今日の不景氣を救ひ經濟界の好況を回復する事は出來ないのである。現に此等の事實を觀るものは世界の現狀に於ては國際心理の改善すると同時に國家主義を改善して世界主義と調和せしむるの必要を悟ることが出來やうと信ずる。

曾て五十年前迄は同じ日本人であり乍ら列藩互に敵視することが恰も惡魔の如くなりしが廢藩置縣後の今日に於ては薩人も長州人も全く親睦的感情を融和せざるやうになつたのである。國際心理も家族的現狀より漸次改造して共助共存的になるべき運命を有してゐる。若もそうならなければ人類は一度絶滅して再び出直すより外はなからうと思はれる。國際心理が何時迄も復讐的であつて文明國人の智能を殺戮用に供する以上は毒瓦斯、殺人光線の類は何の程度まで工夫發明せられるかも知れず其の結果として戰爭一たび起れば交戰國の人類は老若男女を問はず悉く死傷するに至るであらう。先般の大戰爭の結果等に見ても餘りに馬鹿げてゐるが今後に來る戰爭の結果は其悽慘の程度を想像するさへ戰慄を禁じ得ないのである。人類愚なりと雖もまさか此の惡夢を再出するほど愚昧ではなからうから戰爭の慘禍を具に戰敗した列國人民は知らず識らずの裡に彼等の國際心理を改造して友好的共存的に變遷したと確信する。現在の程度迄に個人の知識が進步せし世の中にすら復讐的國際心理が繼續すれば人類は國家あるが爲に幸福を受けずして却て不幸を招くこととなる。今後個人の知識が增せば增す程國家の敵對狀態は人類の不幸を增加する事になる。人類の幸福增加の機關たるべき國家が其不幸增加の機關となれば國家の前途は唯滅亡の二字あるのみである。故に國家の滅亡を救ふ唯一の道は復讐的國際心理を改造して友好的共存的たらしむるより外にないのである。而して文化列國は先般の大戰爭以來著しく此方面に進行しつゝある。彼の國際聯盟、軍備制限、國際裁判等の問題が大に贊成者を增加し漸次實行に近づきつゝあるは何よりの證據と見て宜しい。僅か五十年以前の我が同胞は、兩刀を以て武士の魂と考へてゐたが今日は其魂を脫却して平氣で居る五十年以前の我が同胞は必ず兩刀を帶びして外出するを以て危險至極と考へたが今日では少しも危險とは思はない個人としては武器を携ふるの必要を感じないが國家としては一日も軍備を撤するどころか之を減縮するだに危險千萬と考へて居るものが多い。であるが恰も五十年前の同胞が大刀二本の內一本を減じても身命の危險を感じたも同樣の有樣であると謂はねばならぬ。

時勢が進步し國際心理が改造された通りに國際心理が改善すれば輕刀の出來た如く軍備撤廢も可能性を增して來る。其第一步たる軍備縮少の如きは今日既に充分の可能性を生じて來た。古昔は事闘に由つて解決したる個人間の紛議も今日は裁判に依つて解決するまでに世は進步して居る。今日國際間の戰爭に由つて解決する國際紛議も將來は國際裁判に依つて解決するに至ること は疑惑を容るゝの餘地がない唯其は國際心理さへ進步改善すれば戰爭は減少し平和は永續し軍備は初めて減少し次で撤廢するに至る。之が爲に浮く所の每年數百億圓の殺人費は之を文化を進め能力を增加し衣食住を改善するが爲に使用して貧富を或る程度迄は一樣に文化の恩みに浴することが出來ることゝなる。而して翻つて世界の大勢を大觀して見るに國際心理の進步改善は着々進みつゝあるを以て吾人日本國民は怯まず臆せず此の潮流に棹つて勇往邁進しようではないか。是年頭に際して予が切に我が同胞に告げんと欲する所である。(談)

世界產業の趨勢(下)
西鮮殖產鐵道會社常務　賀田直治

以上は即ち歐米に於ける產業上の進步概況であるが、此間各國々民は緊張して確保すべき位置に在り、各國境を接して獨國と對立する丈けに其の競爭心も強く、戰後工業に關する國民及政府の志望は益々旺盛にして、一方には理想的ながら國際聯盟の考へと戰禍に懲ける平和的要求の精神現れ茲に國際觀念を促生して居る。又從來の如く科學的物質萬能の弊を認めて精神的且つ心靈的に融かんことを欲するの念を生じ、產業上にも人格及人道の分子を加へ、社會及教育の方針を共に產業の着眼の上に置かんとする氣運は漸く動かんとするの現象である。

加ふるに二十世紀の產業は益々大規模の組織となり、國境を以て決して限局することは出來ず。資源と市場とを求むること宛から水の低きに就くが如く世界各地に擴まつた。而も交通と通信機關の便利は益々世界を近接せしめ、愈々以て世界的產業、世界的市場、世界的財政と云ふの時代となつた。故に產業に關して國際的な協調的方針を立つることは國際的親交の第一義であつて、之に反する時は如何に平和を欲し戰爭を排するも永遠の安全を保することは出來ず。產業其物が却て戰爭の原因となり幫助者となるやも知れぬ。是即ちワシントン會議に次いで經濟會議の企圖せらるゝとの評判ある所以と思ふ。

今後の產業は主として民主的國際的を要する一方又人物の活動を重要する。即ち中心的人物に依り誘導せらるゝことは依然缺くべからざるも、結局は國民各個の努力の集合體たらねばならぬ。產業に關する基礎觀念が各國一致して協調するに於て始めて國際關係は圓滿に融和するであらう。その基礎觀念とは即ち正義と經態とに本づきて人道化したる產業を云ひパスターの所謂平和仕事及健康の法則を基調とするを適當と思ふ。この基礎觀念に共鳴して所謂產業共和國的に彼此融通の國際關係をつくることを以て終局の目的とすべしと考へらるゝのである。

產業は其生產と同じく分配に於ても肝要なる任務を有し從來產業上の當事者を勞働、資本及び管理となして居たるを近代の意味にては產業の當事者は勞働、資本、管理及社會の四者と云はれてある。即ち產業を中心として社會に關することの多きを意味するのである。結局產業の目的は社會奉仕の感念に立つことを辨ずべきである。

今日に於て世界は旣に共通である交通々信の進步、產業關係の聯關、金融の組織、思想の流通其他益々世界は共通の狀態に立たねばならぬ。而も國家個々には非常なる差異及特色を有して居り、國家觀念も愈々鮮明の趨勢なる場合を連絡聯斷せしむるを要するのである。

產業の進步は勿論今日に於て歐米を以て模範者とし、其科學の進步に依りて天然を活用し、自然資源を利用することの技能及資金を有して居ること確に世界產業の先進である。其が歐米、濠洲、南洋は勿論吾が東洋に向つても歐米產業の影響を與へつゝある。然るに東洋諸國は往時に於て高度の文明を有せしも、最近國民の荒狀は甚だしく產業は最も不振を極めて居る。只吾日本に於ては僅に五十年以前の消化性及調和性に基き、五十年以來歐米の指導に依り產業の革新につとめ、產業の進步は第一農業の上に現はれ次に工業に向つて發展中で、產業教育の進步も頗る顯著に共進して居る。他の東洋諸國特に支那の如き印度の如き將た西伯利の如き今日に於てこそ產業の見るべきものなきが、天然の資源に就てはなかく天惠を有して居る將來の開發は結局時の問題であると思ふ。

以上の如く產業の狀態に於て時代と經序との差異あること實に甚大なるを以て、其程度に應じ產業の方針を定め實際に適應せしめねばならぬが、兎角人は新奇を追ひ勝手を云ひたがるものにして、勞働問題の如き、餘程に事情を異にする歐米の狀態を參考として行程のみ直に歐米に倣はんとするが如き行爲の多くを見るは誠に思はざるの甚だしきものである。

朝鮮の如きも產業は主として低級の時代にあり今日に於ても未だ十分なる發達を有せざるも、運用如何に依り前途の發達を期するを得べく、天然的に餘力を有するを以て產業上には大々的の努力を要し、先づ東亞大陸に聯接の關係を持つ結局內鮮の產業を援近實現して、更に歐米列强と協調提携して世界民族の共同の幸福、平和を期する最大目的に向つて前進せねばならぬと信ずる。

朝鮮事務大臣を設置せよ
衆議院議員　波多野承五郎氏談

朝鮮總督は種々努力の結果に回つて上京し、大正十一年度朝鮮總督府豫算に關する補給金五百萬圓支出に關し各方面に交涉奔旋する處があつたが、その支出は恐らく總督の希望を滿足せしめる事が不可能となるであらうと思はれる。今後朝鮮に於ける文化施設は益々其の歲入出の增加を促す事明にして、之に對し總督府は單に年々歲々纏み纏き補給金を的にして

朝鮮の開發を

爲し得るものと考へて居るであらうか。決して左樣に考へて居る譯でもあるまい。然らば朝鮮に於ける根本的財政策を樹立しなければならぬ。補給金に由らぬ根本的財政策とは何であるか。勿論それは租稅であるが朝鮮は內地の如く殷富でないから、現今と異り其地域廣く、其民多くして而も以上の租稅に由る歲入には餘り多くの期待を持ち得る事は能きない。然らば即ち公債を發行乃至は朝鮮自ら產業の開發を爲し、自然增收を企圖しなければならぬ。

產業の開發は

先づ鐵道網の完成水利開拓の獎勵等を行はなければならぬが、之は言ふべくして一朝一夕に行はれない。又行ふとしても其資金は是非共有利の公債等に由るの外に道はない。而し乍ら現今我國の財政政策上、現在の政府公債より有利なる朝鮮公債の募集を許し難き事情があり、又財政統一の上よりみても、朝鮮公債の發行は許されぬであらう。然らば朝鮮は是非共補給金を得る爲め、年々總督自身が政府當路の各方面と

交涉を重ねて

猶且つ其決定を見るに至らぬと云ふやうの事では甚だ心細い次第である。然らば朝鮮に補給する金が無いのかと云ふに決して左樣ではない。民間も然る如く政府にも金は可なりに保有して有る。然らば何故に我が朝野政界の人々はしかく補給金問題即ち朝鮮問題に冷淡であるか。これは現在の朝鮮の政治組織が然らしむるものである。即ち朝鮮總督府は內閣に何等の代表者を有して居らない。一拓殖局を通じて總理大臣の直轄に屬して居る事に成つて居るが、總理大臣は內閣に對して常に朝鮮を代表して

其の利害の爲

に奮闘して居らぬ事は事實である。又各省の豫算の審議に際しても總理大臣は裁判官と云ふやうの立場である。公平無私の裁判者であらねばならぬ。然るに其の豫算審議の裁判官たる總理大臣が、自己の直轄する朝鮮の豫算を先づ獲取すると云ふ事は能きない。之は今度の補給金の問題の經過である事實が證明して居るではないか寺內總督時代の總督官制は、總督は直に天皇に直隸し內閣に代表者を持たなくても相當の仕事は能きた。又時代も今日とは異つて居た。元來朝鮮は

併合時代には

英國の殖民地政治に傚つて組織せられて居るのであるが、英國の各地殖民地と我朝鮮とは全く其性質を異にし、其距離の甚だ近接して居る點から云ふも、其民種の同系なる點より云ふも、朝鮮は單なる殖民地ではなくして直に內地の延長である。而も寺內時代の官制と異る今日總督府は、どうしても內閣に直接の代表者を持たなければ仕事が能きなく成つた事は自明の理である。英國內閣には印度事務大臣を置いて印度の政務を執つて居る況や內地の延長である朝鮮一千七百萬人の爲に、內閣に直接の代表者のない事は

萬事に不便で

ありて不利であるは云ふまでもない。宜しく朝鮮總督府及朝鮮在住の內鮮人は內閣の內に朝鮮事務大臣の設置を計畫して中央政府と緊密の關係を有し、政務の圓滑を圖らなければならぬ。更に朝鮮在住者は貴衆兩院に其代表者を送らなければならぬ。東京及內地在住の朝鮮人の有資格者は內地同樣に選擧權を有する事を認められて居るではないか。內地の延長である朝鮮で選擧權の認められぬ理由はない。而しながら余は時と處とを問はず朝鮮全般に亘つて

同時に選擧權

を許す事を唱道するものではない。其文化及同化の程度如何に由つて、漸次に區域を限つて選擧權を認めよと主張するものである。北海道の如きも最初は札幌、小樽、函館の各區に限つて選擧權を認めた事實もある。此意味に於て京城、釜山の如き最も內地化して居る古い市街であるが故に、この地方などは先づ最初に選擧權を與へらるべき處であらうと思ふ。朝鮮在住者の內鮮人が何故に此の當然の權利を要求するに冷淡であるか。何故選擧權の實施を要求し高唱せないか。これは金儲け一方の新開地である事が其一因であるが、今後は若き人々が起つて

現在の中心に

なつて居る老人及中年頃の人々の金儲け熱中以外に、眞に目醒めたるこれ等の要求を爲すに至るであらう。北海道、沖繩等に選擧權を實施せられた時も、それは老中年の叫びでなく、當時微々たる青年達の叫びであり、要求であつた。而して其リーダーであつた。朝鮮の眞の開發は斯くの如くして始めて根本的に策せられ、名實共に內地の延長となる譯である。(東京支局)

平和博開會に際して
半島の爲に宣傳せよ
朝鮮館設置の目的
東京府產業部長平和記念博覽會事務總長　遠藤柳吉氏談

平和博の目的

本年三月東京の上野公園に開設せらるゝ平和記念東京博覽會は正に近時の偉觀たるべし。敷地總面積十二萬坪建物一萬五千餘坪に上る、是を大正博覽會當時の規模に對比し來れば敷地に於て敢て擴大なりとは謂ひ難きも、其建設せられたる帝都の新開地たれば遜色なし、建物に於ては約二割五分の擴張なりとせらる、平和記念東京博覽會は其名の如く世界平和の克復を祝ふの心に出づ、然れども平和の克復は即ち直に平和的職業の勃興を意味するは余の贅言を要せざる所、平和克復の御祭り騷ぎにあらずして、戰時中又戰後に發展勃興せる我產業界の實力を展示し眞相を公開して、今後に於ける一段の進步に資せんとする所なり、されば平和博は單なる平和克復の外ならざるなり、是を以て平和博は大體に於て產業中心たり、營業館あり、林業館あり、水產館あり、機械館あり、電氣館あり、化學工業館あり、染織館あり、製作工業館あり、交通館あり、航空館あり、食料館あり、衛生、美術、教育、動力、外國館、拓殖の諸館を加へ主要の大建築のみを數ふるも二十指にして足らず、各館に於ける內地各府縣各殖民地、英佛米瑞等各國の競爭今より想像に堪へたりと謂ふべし。以上に掲げたる各館の外有力なる特設館の建設又十數を數ふべく、就中北海道、朝鮮、樺太、滿洲、臺灣、等各地の特設建築物は各地方を彩る特種の風趣と內容とを以て觀覽者を魅了せずんば已まざるべし、我が朝鮮館は第二會場たる不忍池の東畔、臺灣館樺太館と相隣して建てられ總面積三百坪に上る、その朝鮮風の建築と朝鮮產業の展觀とは平和博中に於ける一光彩たらんは、予の今より信じて疑はざる所とす

朝鮮館の內容

朝鮮館を通して平和博は何を得んとするや、產業上に於ける朝鮮產業の發展を示すは其一なり、內鮮の關係が如何に緊密なりやを示すこと其二なり、內鮮人融和の好機を作る其三なり、謂ふ迄もなく朝鮮は最近十五年間の統治に於て著しき進步をなしたりき、今後更に一段の開發を遂ぐべきは明かにして內地の朝鮮に俟たんとするもの頗る多きものあり、一二の例を擧げんか

▲米は內地に於て年々不足を告げつゝあり、朝鮮に於ては今日に於ても僅に二三百萬石の輸出能力を有す。現に大正七年には二百三十萬石餘移出額を數へたりき而して今日の水田は百五十餘萬町步なるも更に灌漑の改善を得べきもの四十萬町步。畑を水田と爲し得べきもの二十萬町步合計八十萬町步を期待し得るは調査の明示する所にして、尙は米種米作の改良を完うせば今日の收穫を殆ど倍加し得べきこと明かなり

▲若し夫れ棉花の如きは到底是を內地に得べからず。朝鮮に於ては全羅南北道及慶尙南北道を主產地とし殆ど各地に是が栽培を見ざるなく、總作付反別十一萬町步に達し、年收七八千萬斤に上れり。素より是を以て我が需要の一部をさへ充し得べきにあらずと雖も。遼陽を中心とし滿洲に於ける棉作の有望なると共に。我が殖民地に於て是を得將來の改良を期待し得るは吾人の意を强うする所以にあらずや

▲朝鮮は由來地下の埋藏物に富む平安北道雲山郡、黃海道遂安を中心とせる金の產出は年額一千二百萬圓に達す。黑鉛は咸鏡北道、平安北道を主產地とし鐵鑛は全道に亘れるも。就中黃洲及黑橋附近より兼二浦に至る附近に平安南道价川郡の褐鐵鑛を最も多產となす。其他タングステンの如き內地には是を得べからざるものにして、朝鮮に產出豐かなるものあり。彼の陶土ガイロ目の如きは內地有名の陶器產地に於ても尙は朝鮮の慶尙南道河東郡產又は熊本縣天草產に依つもの頗る多く、我が府下に於ける高級理化學用電氣用磁器の原料は多く河東郡產のものに依れり。其他チタン、セレニューム。トリュームの如き稀有金屬の採掘有望なりとせらる水產者亦甚だ望多きは予の絮說を要せざる所なり

▲朝鮮の產業界に於て近時最も注目すべきは工業の發達にあらん、世界大戰前に於ては素よりの事見るべきは僅に製鹽、精米、機業、煙草、皮革、釀造等に過ぎずして其の工場も殆ど見るべきものなからしが近時の發展は目覺しきものあり。是を數字に見んか大正三年には大小工場合せて六百五十に過ぎず。資本總額二千萬圓に滿たざりしが、大正八年には工場約二千に近く資本總額一億三千萬圓を算するの盛況に向へり。此の數字に包まれたる朝鮮工業の發達は一は工業種類の增加なり二は工場規模の擴大なり斯くして原料國產業國たりし。朝鮮が漸次製造國工業國として有力なる活動を爲さんとするは誠に慶すべきの至りなりと謂ふべし

平和博覽會が朝鮮館を通して見んとするは要するに是等朝鮮產業の進步發展なり。其の進步が如何に內鮮人に依りて計畫せられたるか及び其の進步が如何なる脈絡と緊聯とを內地に致すべきか、畢竟內鮮結合が產業上に表はれたる程度如何は最も注目すべき要項たり。予は朝鮮館が以上の期待を最も良く最も明瞭に展示すべきを疑はず。是內鮮綜合の效果を語る一大雄辯と謂ふべき也

內鮮融和の好機

最後に平和博の賑態を挿とし一層內鮮融合の機を作らんことを望む交通機關の割引優遇は一は是が爲に期せられたるものなり、平和博當局亦一期の熱誠を容まざるべし。予は平和博を機會として內地の事情に接せんとする朝鮮上下の紳士淑女多からんことを切望し期待せんとす

朝鮮株界の回顧(上)
附 京取市場發達史

朝鮮に株式が勃興したのは極めて近の事であつて、明治四十三年頃釜山に本、田中、堀、金龍氏等が現物問屋組合を組織した當時は相當の隆盛の形ともあつたさうだが、其後中絶の形となつて大正三四年頃迄は田中、近藤、古谷氏等が醸業として債券類と共に少し許りの內地株を扱つて居たに過ぎなかつた。

△間もなく有田、新田の現物店が生れ次いで開牛店が出現して大々的に活動したが、相場の變動に依り呑み行爲を暴露し、期年ならずして蹉跌した之が爲め損害を蒙つた者も少なかつたが、一般株式に對する智識を啓發し確實なる現物店の取扱高は頓に增加して、茲に朝鮮株式界は漸く運つて來た。

△而して京城の株界を最も刺戟したのは古くは京城の增資次いで農工銀行の增資、最近では仁取の增資であつたの集團が殖銀となる時、更に鮮銀の增資、殊に仁取は成立後の增資である丈けに頗る色氣の念を以て迎へられたが、恰も株式勃興の機運に際會して居つたので、四十圓のプレミアム付で賣出されたものが、間もなく百七八十圓の相場を現はした。

△此頃より市人は漸く株式投資の興味を喚り、折から戰時戰後の財界好況より新設會社勃興して、株式と云へば殆ど熱狂的に歡迎され、今より考へれば一顧の價値もなき新設會社の株式が十圓二十圓の權利で飛ぶが如く賣れたものである。即ち仁川倉庫が十二三圓ブルチュッタが五六圓、東亞新株が三十五六圓の權利を唱へられたこともあつた。

△右の如く株式熱勃興と共に現物問屋は雨後の筍の如く簇出し、四五軒のものが忽ち二十數軒となり、後に京城有價證券現物問屋組合なるものが組織され、田中友吉氏組合長となり近藤熊氏副組合長として田中氏を援け斯界の發達に資する處あり、間もなく組合員も三十名を算するに及び漸く世人に其の存在を認めらるゝに至つた。

△京城に株式取引所を設けたいといふことは十數年以前からの宿題であり京城の有志ばかりでなく東京、大阪、名古屋方面の有志に依つても屢々計畫され出願もされたのであるが、其の都度當局は躊躇する狀態が無いので、詮議の限りに非ずの一點張りで却下したものである。

△然るに前述の如く株界發達の趨勢は朝鮮經濟界の爲め產業資金疏通の爲め、有價證券の公定相場を附する現物市場の必要を痛感するに至り、與論漸く喧しくなつたので、茲に鈴木、天日、古城、其他の各有志は田中、新田、有田氏等の當業者と相謀り現物市場設立の計畫を樹てた。

△設立計畫の進むに從つて、全鮮商業會議所の會頭又は副會頭を以て發起人に加へ愈々當局に認可の申請を爲したが、之を聞き知つた鮮人側は直に同一目的の會社を出願し競願の形となり、其他に大倉、松本氏一派の競願あり、當局も其取捨に頭を惱ました模樣で、一朝一夕に認可の指令も下りさうもなかつたが、結局鮮人側より發起人を割込まして株式を分讓することにして纏りが付いた。

△資本金三百萬圓六萬株しかない處に人氣は殊の外高潮し權利は創立前早くも四五十圓を唱へらるゝに至り、割込運動猛烈を極めたので發起株申込は潮の如く押し寄せ、空前な盛況は當然を豫想して當時權利の豫約を知に先立ち早くも權利の豫約買を爲す者あり、最高六十圓の呼値も出來たといふ人氣であつた。

△斯かる狀態で會社は其の割當方法に就つては少からず頭を惱ました結果全鮮に於ける各種公共團體、郵便局、醫師會、其他町總代同總代に至るまで成るべく廣く割當つる方針を取つたが、限りある株式にては到底行き渡る等なく當局は各方面から糾彈して、創立委員たる鈴木氏の門前常に市を爲すといふ狀態となつた

半島を中心とする
壬戌の歷史
一記者

干支革まつて壬戌の新年を迎へた。五行說からは何と云ふか知らぬが、過去二千年間に於ける壬戌を半島を中心として列擧して見よう。新羅時代よりそれ以前は杳として從つて暗中摸索の感があり興味も少く考證も不充分であるから除く事にした。

一、新羅の始祖赫居世の五九年　高句麗琉璃王の二一年、百濟始祖の二〇年に當る。然し是は白頭山北の事と思はるゝ。日本は垂仁天皇の三一年、支那は前漢の末で平帝の元始二年、皇紀六六二年、西暦二年である。

二、垂仁の九一年　皇紀七二二年、新羅脫解王六年、高句麗太祖一〇年、百濟多婁王三五年、駕洛(任那)太祖二一年、高句麗の南邊に名物のつ害があつた。

三、景行天皇五二年　皇紀七八二年、新羅祇摩王一一年、東の大風が吹き不作で流盜多く物騷な年であつた。高句麗は太祖の七〇年、新興の氣鋭に遼東方面を征めて勝つ。

四、成務天皇の五二年

五、神功皇后攝政の四二年

六、應神天皇の三三年

七、仁德天皇の五〇年

八、允恭天皇の一一年

九、清寧天皇の三年

一〇、欽明天皇の三年　新羅眞興王の三年、高句麗安原王の一二年、支那は南北朝の末梁武帝の大同八年で皇紀一二〇二年である。任那日本府即ち駕洛の滅亡は欽明帝の二三年となつて居るが新羅史では既に十年前即繼體天皇の二十六年となつて居て約三十年の相違がある。新羅は漸く勢力を增進し、支那に倣つて年號を立て建元と稱するなど頗るハイカラ振り、高句麗は兩江の南北に跡跼して威を奮ひ中に挾まつた百濟は前門の狼後門の虎と恐れ込んで迎りに日本に色目を使ひ、十年後の壬申の年即ち欽明帝の一三年に佛像佛經等を日本に傳へた。

一一、推古天皇の一〇年　新羅眞平王の建福一九年、高句麗嬰陽王の一三年、百濟武王の三年、支那隋の初世で文帝の二年三國とも隋と頻繁な使節の往來があり。百濟僧觀勒が天象曆及天文の書等を日本に傳へたのも此年である。

一二、天智天皇の元年　新羅文武王の二年、高句麗寶藏王の二〇年、百濟は二年前に新羅と唐の聯合軍に攻滅され、高句麗も後六年して唐羅の挾擊に滅亡し半島は新羅に依り有史以來初めて統一を見た。耽羅王(濟州島主)も新羅に投降した。

一三、元正天皇養老六年　新羅は聖德王の二一年で國都に地震あり、始めて百姓に丁田を給した二四年前渤海國が高句麗の一部に起つた。

一四、桓武天皇御即位の延曆元年。新羅は宣德王の三年

一五、仁明天皇承和九年　新羅は文聖王の四年

一六、醍醐天皇延喜二年　新羅は孝恭王の六年、前年泰封王弓裔國を立つ。後百濟の開國一一年なり、渤海國は哀王の二年、半島又分立す。

一七、村上天皇應和二年　高麗光宗の峻豐三年渤海國は唐に合せられ高麗は泰封に代つて廻り平壤に都して一統を爲す。新羅及後百濟前後して亡ぶ。統一後二十六年である。

一八、後一條天皇治安二年　高麗顯宗一三年、支那は宋の仁宗乾興元年契丹と隣往復した。

一九、白河天皇の永保二年　高麗文宗の三六年、對馬の使來貢すとある抑も對馬は遠く日本々土を隔れ地塙角にして米を產せず、常に半島に之を求めた。時に依りては寇し又通交する事もある。天涯の孤島今日より想像するが如きものではなかつたであらう。

二〇、近衞天皇の康治元年　高麗仁宗の二〇年

二一、土御門天皇建仁二年　高麗は神宗の五年耽羅及慶州に叛あり。前者は直に鎭定せしも後者は翌年に至りて漸く賊魁を誅す。

二二、龜山天皇の弘長二年　高麗は元宗の三年、支那は宋の末にして蒙古勃興して金及遼を亡ぼし末に半島を威嚇しつゝある時。即ち世宗の三年にして銅錢を求む。僅に數を減じて遂る。

二三、後醍醐天皇元亨二年　高麗忠肅王の九年、上王即ち忠烈王は吐蕃に在り、王は元に在りと高麗史に見えて居たが是は人質の爲めである。邊境萬雉有沿井等の上書に依つて王丈は隨國する事が出來た。

二四、後龜山天皇の弘和二年　即ち南北朝の末である。高麗は前廢王辛禑の八年明の太祖洪武十五年。高麗の末期で八月に漢陽に遷都された。楊水尺、伊金、陝州私奴等の亂があり胡拔都は北境を掠め、南方の海岸は倭寇に擾まされ所謂內憂外患交至るの時代。

二五、後花園天皇嘉吉二年　李朝四代の英主世宗の二十四年で。天下泰平測雨器を製したり。官吏の試驗法などを制定した。

二六、後柏原天皇文龜二年　燕山主の八年、多年京畿道の沿岸を掠めて居た賊を補誅した。

二七、後水尾天皇元和八年　光海君の一四年、清の太祖の五年で。明清戰鬪の餘抹を少し受けた位である。

二八、靈元天皇天和二年　肅宗の八年殺して無事。

二九、櫻町天皇寬保二年　英祖一八年蕩平碑を親書して泮橋の邊に立つ

三〇、光格天皇享和二年　純祖の二年

三一、孝明天皇文久二年　哲宗一三年、積弊漸く顯はれ所々に亂民起る

謹賀新年

京城大和町一ノ三九　辯護士　特許辨理士　松本正寬　電話一〇五四番　旅行中に付缺禮仕候

京城東四軒町　甘泉亭　電話二九八六番　新年宴會大勉强

朝鮮京城本町一丁目四十八番地　宮內省御用達　株式會社　橫山商店　電話長三〇〇番　奉天浪速通り　電話三九〇番

京城府漢江通三番地　清水堂洗工場　清水卯吉　電話龍山七五四番

特許セメント瓦製造株式會社　本社　京城明治町一丁目五十四番地　電話長九三七番　振替口座京城七〇五七番

京城府岡崎町九十三番地　京城建具株式會社　電話龍山一五五番

京城本町三丁目　株式會社　京城劇場　電話五七八番

京城ホテル　京城南山町　電話長四九二三

朝鮮火藥株式會社

天然炭酸水サイダー製造販賣　中原商會　京城南山町　電話長四九〇二　振替京城四二三

龍山醫師會

蛇目萬次郎　京城南米倉町　電話長九三〇番

京城府林町一六二　小野商店　電話七九一番

志岐信太郎

三品齒科醫院　院長ドクトル三品繁吉　自宅　旭町一丁目一四三

合資會社　町田商店　京城本町二丁目　電話四九一番

皮革　北村商店　京城府南大門通一ノ九三　電話長七番

各地商工業の緊急對策

仁川刻下の急務

先づ第一に工業を發達せしめなければならぬ

仁川商業會議所會頭 吉田秀次郎

【仁川】我仁川は幸いに地の利と國の總せる港灣的設備を有する關係上商業は日に月に發展擴張せられ、今日に於ては朝鮮全道は勿論、進んで支那滿洲方面に活動せる盛況は、蓋て仁川をして將來一層の大仁川たらしむる地盤として洵に愉快に堪えぬ處である。元來商業の發展といふ事は資金關係を除きては機敏なる商才と之が補助機關たる交通機關の充實が最も大切である。此の點に於て仁川は古來見ざる海運界の盛時に當り、商取引上至大の利便を享受しつゝある事は一面我朝鮮商業界の發展上深く喜ぶべき現象である。

朝鮮の商業は今尚對內地關係であつて、未だ對支那及び對歐洲方面には發展の餘地綽々たるものがあるが之等は商品の種類及材料の關係並に金融機關の關係等に左右せらるゝ處多く、一朝一夕に論議する事は出來ぬ。今日の急務としては寧ろ工業の發達に在ると信ずるが、現在の仁川工業方面を見るに、仁川は固より朝鮮全體を通じて未だ適當の工業品と目すべきものもなく、水產品の如きさへ却て內地より移入せる狀態に在る。斯の如きは朝鮮人職工の賃銀や原料並に材料品等の供給狀態や動力燃料の關係等が、未だ十分有利なる事を證明せられざる爲め自然事業を萎縮せしむるものあるべしと雖も、主たる原因は事業資金の缺乏にありと云ふ事が出來る。

然るに現時朝鮮の產業として內地資本家の着目するものは土地の開墾干潟地の埋築、水利事業等で其職務は大抵土地に限定せられ、未だ一般工業に及んで居らぬ。勿論數百萬圓を投資すべき大事業は投資家も大に考究せねばならぬが、左程の大事業でなく單に朝鮮內の需用に供給すべき幾多の工業ある事を看過してはならぬ。今日は一般內地人の頭が徒らに一攫萬金を夢想し眞面目なる生產的事業を厭忌する風がある。斯くの如きは絕對に排除しそして眞面目なる內地工業的勞働者の多數を移住せしめ、以て各種生產品の製造を盛にせねばならぬ。藤本博士は米の生產に內地農民の移住を主張せられて居るが、吾等は工業の發展を期する爲め工業的熟練なる職工を多數移住せしめねばならぬと思ふ。而して之等小工業家に對して資金を供給する事は先覺有力者の義務であると信ずるのである。

更に又如何なる工業が之れに適するかに就ては我が會議所として相當調査してあり、尙斯道專門家の意見を徵して十分指導熱心なる企業家に滿足を與へたいと思つて居る。要するに現時緊急の工業開發は資金融通と共に、此の熱心なる企業家の出現に依つて希望を達せらるべき事を斷言するものである。

奮起せよ木浦市民

自ら大に努力健闘して前後の强敵を擊退せよ

木浦商業會議所會頭 高根信禮

【木浦】木浦の繁榮策としては綿花の栽培、多島海の開發、交通機關の完備、海陸連絡の設備等色々あるであらうが、結局木浦人士の奮勵努力を欠いだならば、折角の施設も無用の長物に歸すであらう。殊に商人諸氏の活躍すると否とは木浦の死活に關するので、大正十一年の劈頭に當り須らく其の奮起を促し、永遠の計を樹立せん事を希望するものである。由來全鮮は凡ゆる點に於て天惠に富んで居て生活が樂である。之を北鮮の荒野に比すれば恰も南國的氣分である。幸か、不幸か、此の南國的氣分が人間をして緊張味を缺かしめるのである。從て在來の住民のみと言はず、移住內地人と雖も知らず識らずの裡に此弊に陷り易いのである。此の氣風を一掃しなければ如何に綿花を開放し、如何に交通を發達せしめ、如何に港灣の設備を完成しても結局、其效果を擧ぐることは六ケしい。單に他に依賴するのみではいけない。自ら大に努力して前後の强敵を退け、潮利多寶主義を以て新天地を開拓すれば、木浦繁榮は招かずとも自から來るのである。

新春に當り聊か所感を述べてお互に努力せんことを希望する。

東海沿岸と大邱

漁港との連繫を完全にすることが急務である

大邱商業會議所會頭 小倉武之助

【大邱】慶尙北道の海岸線は延長百三十八里に亘り、近海は寒暖二海流の交錯點に當れるを以て、魚族の棲息頗る多く、海岸は大體に於て直線であるが時に曲浦深く入込み岬角長く突き出して天然の魚港を成し好箇の漁港に乏しくない。漁港として最も著名なるものとして從來浦項を推されてゐる、甘浦、九龍浦は鰤の盛漁地とし又漁港として好適地であるが隣接せる慶南方面魚港の名に隱れて著れない。其漁獲物の如きも方魚津を經て各地に輸送せらるゝを以て、本道水產統計上其數の減殺せらるゝもの決して尠くない、是畢竟その地勢にして道路險惡交通の便良からざるの致す所にして、本道水產業者に商工業の發展上甚だ遺憾に堪へない次第である。

抑も本道產業の大宗は農業にして就中米穀は其年產額二百三十餘萬石に達し、之が改良增殖を圖り商工業の進展に資するの必要であることは論を俟たない。之に對する當局の要路港灣施設の開發する所なしと雖も、水產業に對しては從來大に閑却せられたることを遺憾とする。本道水產業の頗る有望にして、年々五六百萬圓の漁獲高を有するに想到せば、漁業の發達を圖り商業の發展を期する上に於て水產業振興の必要なる亦多言を要しないのである。

顧つて大邱商工界の趨勢を見るに、戰後經濟界不況時の影響を蒙ること案外に尠く、健實なる發達を遂げつゝありて、其商勢圏は本道內は勿論慶南の一部遠くは忠南、京畿の各地方に及ぶを見るも、然も本道東海岸に於ける漁業地の經濟關係は殆んど常に慶南交渉にして其の漁獲物は釜山及內地商業者の壟斷する所となつて、微少なる本道漁業者の常に本道に利益を齎すことの極めて稀薄としてゐる所である。本道に於ける主要交通機關は港灣と各漁業地を連絡するが、道路の修築、漁港の設備及各漁業地間に於ける運輸上の設備未だ完備せざる爲めに本道有數の漁業地たる甘浦、九龍浦の如きも從來一般に閑却せられ、當局の施設十全ならざりしは本道水產業發達は勿論商工業の發展の爲に痛惜に堪へない。道當局に於ても之等施設の急務なるを認め益に適宜の計畫し各漁業地を視察し適當の施設を講ぜらるゝあり、之等施設の一日も早く實現せられて、本道水產業の振興を圖り漁業地との經濟關係を緊密ならしめ一般商工業の發展に資せられんこと望んで止まないのである。

由來本道は氣候風土の關係上農產物に富み、農業上の施設改善は他道に比し敢て遜色を見ず、頗る好成績を擧げつゝありと雖も、水產上の施設に至りては從來閑却せられたる感あり、之が爲め其開發の殊に全南慶南の諸道に比し一籌を輸するあるは識者の夙に認むる所であつて、新春劈頭吾人が本道水產業の振興を說いて一般商工界の發展に言及する所以も亦茲に存するのである。

洋々たる春川の前途

願くば人の和を得て其の發展を促進せんことを

江原道春川郡守 渡邊清足

【春川】春川は江原道の中樞地たるに拘らず商工業の發達遲々として振はざるは、主として交通の便ならざるに起因するは自他の共に認むるところであつて、遺憾此上なき次第である。

春川は米穀、大豆、麻、木材、雜穀等の集散地としての素質を有し距離を以て京畿方面に移出する穀類其他は少でないが、如何せん漢江は結氷期約三四ケ月は全く舟運杜絕し僅に牛馬車に依るの外なき狀態であるから商工業の運輸甚だしく發展を妨ぐること驚くほどである。故に春川の繁榮を期せんとせば、先づ以て京春間の交通を整備するを急務とする。一昨年以來內鮮有力者の發起に依り京春間鐵道敷設の計劃あるも、財界不振の爲め未だ工事に着手するに至らない。聞くところに依れば近々會社を創立し事業進行の緒に就くであらうとのことであるから春川發展の爲め慶賀に堪へざる次第である。果して鐵道敷設の曉は、春川商工業は頓に其面目を改め、電燈水道は勿論電力に依る諸種の事業勃興し、澱粉、精米、製絲、製材等の工場は龍頭里方面に軒を並べ、舟便の利用と共に物資集散の殷賑は期して俟つべく、一方人口激增と共に市街は龍頭里に延長し、商家櫛比するに至るであらう。春川の前途は實に洋々たるものがある。天の時、地の利既に之を得てゐる。願くば人の和を以て春川の繁榮を促進せんことを。新春を迎ふるに當り聊か所感を述べて前途を祝福する。

群山在住者に望む

發展策の前提として腰掛主義を廢めて欲しい

群山商業會議所會頭 大澤藤十郎

【群山】群山に於ける商工業の發展策としては、左の三個の目的に對する施設を急がねばならぬと思ふ。

一、米穀の移出港としての本能を益々發揮せしむべく其の商的機關の充實を圖り、一面に背後を擁してゐる大平野の農產物の增收を促すに努むること。

二、海面無盡藏の水產物の大集散地たるを期すること。

三、群山に適當なる工業を起し、且つ忠淸南北道全羅南北道主要地に商勢を擴張し、移入商品の一大卸場として飛躍する等を目的として力を傾注せねばならぬ。

第一と二の目的を達せんと欲せば築港の改築、即ち人工的設備に依つて現在の缺點を排去すること。三の目的を達せんとするには工業の計畫には、原料其他需要品に伴ふ諸般の調査及販路の調査を要し又商勢の擴張には目指す地方と交通金融機關連絡の有無等各種の調査を要し、此點商業會議所を利用し其機能を全うせしめねばならぬ。而も之等の事たるや港民の協力即ち港民といふ心掛け一つであり、此心掛けが綜合されて始めて港勢を伸ばし商工業の隆昌を見ることが出來る。さすれば此綜合といふが何よりも肝腎であつて、何事を成さんとするにも在住者が其土地を愛する念、其の土地の爲には嘗際せる富を捧げて餘さない底の考へで進まなくてはならぬ。此點に缺陷があつたならば何事も成就するものでない。

然るに吾人は我が群山に於いて近來甚だ憂慮に堪へない現象即ち我が群山の發展に阻礙する現象に接してゐることを遺憾とする。是は他ではない。折角群山に居を構へ相當產を積み信用と名聲を得、世間からも群山に活動して貰ひたいと囑望されてゐた人が、內地の鄕土を慕ふのあまり居を撤するといふ事、それも其事業が存しおくならばまだしも、何もかも擧げて內地へ歸還するといふ態い風を示す者が二三あつてそれが段々他にも傳染し金さへ貯へれば內地へ還らうとする所謂腰掛的氣分の者が案外多いといふことである。斯る態度である限りは決して群山の大を成すことは期し得られまい。工業にしろ商業にしろ將た農業にしろ腰掛的の者にして何うして根底的の企業が成し遂げられようか？事業を伸張するに當つても相當年月を經過せねばならぬ。一時的の考へでは駄目である。總ては根強い競爭心に待たねばならぬ。故を以て吾人は群山在住者に向つて恐らく永住的の覺悟で土地の發展に努めなければならぬ。要するに骨を群山に埋むる底の大決心を以て經濟的基礎を築き上げることを望んで止まない次第である。群山に於ける發展策としては現在港灣改善の時並びに一歩を踏み出してゐる。社會的施設も着々歩を進めんとしてゐるに拘らず。他面に浮き腰の者が續出するやうでは其成功が疑はれる。是ぞ群山の發展の爲め永住的觀念の喚起。是非吾人は重ね／＼港民諸士に切望するのである。

安東の將來は多事

自ら發奮して南支南洋方面に商圏を開拓せよ

安東商業會議所會頭 金井佐次

【安東縣】商工業の繁榮を期すに必要なる施設其他に就き安東商業會議所會頭金井佐次氏は次の如く語る

一、速かに多獅島築港を完成せしめ貿易の發達を期する事

安東新義州兩地の最も遺憾とする處は不凍港のない事である。幸ひ我多獅島は不凍港として十分の價値を認めらるゝ場所であるから之に相當の施設を加へたならば完全なる良港となる事を疑はぬ。多獅島築港の曉は優に三千噸級の汽船三艘を收容する事が出來る。而して多獅島築港の完成した曉には南北滿洲物資の吞吐港として優に大連の向ふを張る事が出來る。況んや輸出入貨物をして通過貿易の特典がある。我安東、新義州、龍岩浦各地の有志が相寄つて多獅島築港期成同盟會を創立して其

二、距離比例により安奉線の運賃を遞減して滿蒙奧地との商取引を結合せしむる事

集中主義である爲めに我が安奉線の如きは非常の差別待遇を受けて居る。長春大連間と長春安東間とは其距離に於て殆ど同一であるが、安東經由の特產物の運賃は非常の高率となり、我安東の貿易の發展を妨ぐる事が頗る多い。之を若し特定運賃の低減に改める事が出來れば、滿蒙奧地との取引に有利に結合する事が出來、今日の輸出貿易を數倍せしめる事は容易の事であると信ずる。

三、鴨綠江流域に於ける水力を調査し水力電氣を起し各種工業の發展を企圖する事

鴨綠江は其流域二百四十餘里と稱せられ、其落差は尠くないらしい。現に滿鐵に於ては一昨年來渭州の上流約十五里の地點に於て理想に近い發電所を得る見込みを以て其の基本調査を爲したと云ふ事である。其の豫想電力何萬馬力を得る事が出來るかは其の知る處ではないが、相當多量の電力を得る見込があると聞く。若し此の電力を開發して低廉なる電力の供給をなす事が出來れば安東の生命である油房業、製紙工業、製材工業、精米、製絲、紡績其他の大小工業を發達せしむる事が出來る。延いては安東の製造工業並に貿易を促進するの急務である。

四、取引所を日支合辦とし奧地市場との取引を敏ならしめ且特產物及び作蠶絲を上場せしむる事

安東取引所は日本人のみの創立であるが、其の組織の不完全である爲め十二分に其機能を發揮する事が出來ぬ。殊に支那人六萬人、日本人一萬人の我安東市場として支那人を疎外し、日本人のみの獨占事業としてある爲に當然上場せらるべき大豆、豆粕の如き商品も取引は皆無である。假に安東の取引所をして其の機能を十二分に發揮せんとするならば日支合辦とし、一日も早く其の組織を變更して日支兩國商人の取引を圓滑にし、特產物は勿論、柞蠶絲を上場する事とすれば、奧地の各市場との取引を圓滑にし、安東の取引所は其存在を東洋有數の市場として認められ、進んでは世界的の一大市場となる事が出來る。敢て取引所當事者の三考を求め一大英斷を期望する。而し前記四項に示したる如き施設のみでは大安東の發展を期する事は出來ない。先づ全市民は須らく奮勵努力して自ら進んで其の商圏を南支南洋方面に開拓する必要があると思ふ。

犬歳の美形

茲に掲げたのは戌歳生れの艶ッぽいところばかり、わざ／＼彼方此方から撰り出した麗妓である。とは云つてもお目にかゝつて見れば諸嬢の好き不好は人樣々、品定めは無論見る者の勝手……

大連 末廣 奴(二五)

晉州 相生 千島(二五)

大邱 大和 春笑(二五)

大邱 芳千閣 小芳(一三)

仁川 銀水 へた子(二五)

仁川 三平 三福(二五)

釜山券番 長吉(二五)

釜山 常盤 萬津(二五)

安東 綾治 由良之助(二五)

安東 東 桃太郎(二五)

元山 丸治 芳(二五)

咸興 福吉 羽屋(二五)

海州 八千代 松の家(二五)

大田 三ツ菊 荒川(二五)

群山 福松 盛局(二五)

謹賀新年

朝鮮燐寸株式會社北鮮代理店 中澤商店 元山府銘石洞 電話二五八番 電略(ト)又ハ(キ)

海陸運送業 元山旭町三丁目 合資會社 足立組元山支店 電話七二二番 藤岡善一郎

貿易商 元山旭町二丁目 三由仁作 元山出張所 主任 西尾小三郎 電話二〇六番 電略(ミ)又ハ(ヨシ) 製造所元山府洲洞

海陸物產委託賣買專業 元山府仲町二丁目 元山商會 電話一六六番 一七六番 電略號(〇ヤ)又ハ(ヤニ)

元山港 貿易商 藤井健一商店 電話二一九番 電略(ケ)又ハ(フケ)

株式會社 大二商會出張所 元山府上里二洞八番地 同製材工場 電話一二八番

元山府上里二洞八番地 北鮮倉庫株式會社 電話五三六番

元山府洲洞 同運送部 電話二〇番

清酒正宗 丸金醬油 周防灘 荒物雜貨 元山府仲町一丁目 大田榮藏本店

元山春日町 貿易商 西島留藏商店

合資會社 田口回漕店 元山春日町 電話四二七四番

海陸產物委託賣買 客主 協成商會 元山府上里洞

朝鮮第一區潛水器漁業組合 海蔘干鮑共同販賣 元山府春日町 電話五九四番 組合長 石原留吉

自轉車及附屬品直輸入 元山本町四 藤本商會 電話四〇七番

京城明治町二丁目五五 西洋御料理 カフエタツ 電話二一八番

京城明治町二丁目五七番地 城六太 電話九六一番

杉山製作所 京城府竹添町二丁目一八 電話長一五七一番

京城本町一丁目 製藥博士 本城屋 電話二四二三番

京城東小門外 朝鮮總督府醫院特定御用 平山牧場 電話一三三番

京城府明治町一ノ一〇 小林藤右衛門 電話六五五番

京城府水標町五拾壹番地 西洋洗濯坂式クリニング洋服丸染 坂機械洗布所 電話三八七番

京城旭町一ノ三五 元新千成跡 御會席御料理 眞砂 森サト 古見マサ 電話六二〇番

辯護士 特許辨理士 高橋章之助 京城府仁寺洞百卅六番地 電話二五六番

理事 田中英一

吉田松太郎 電話一一三八番

里里幸町 東京生そば御料理仕出し たみや 電話五五番

里里幸町 西洋料理 玉川 電話一〇二番

里里幸町 御會席料理 觀月 電話一七二番

里里 兵頭泰 電話一四番

里里榮町 武市歯科醫院 武市知十郎 電話一七番

大澤甚太郎 電話七二番

里里金融組合 組合長 靑田竹治 理事 山內哲

里里榮町 永淵時計店 電話六番

里里榮町 食料品雜貨商 茂登屋商店 電話六九番

里里榮町 書籍雜誌印刷 來島文榮堂 電話三二八番 振替京城三三三番

里里榮町 各種肥料直輸入商 宮井豐太郎 電話六七番

里里幸町 左官受負 在間甚太郎 電話四二番

里里榮町 土木建築受負 永榮信太郎 電話一四四番

里里幸町 穀物白米販賣 飛田三津藏 電話三四番

里里幸町 土木建築請負 細田喜久一

里里榮町 吳服太物和洋雜貨 堂本五郎松 電話一〇三番 振替京城一三八一番

里里本町 窪田好助 電話一四〇番

里里 酒小賣 三富商會 電話四三番

里里榮町 印刷文具雜貨 吉井逸雄 電話一〇五番

大邱府元町二丁目 東洋企業株式會社 社長 加藤一郎 電話長三五五、五五七番

大邱中學校長 和田英正

大邱府大和町 小林金物本店 電話長三三三番

大邱府上町 山本金物支店 電話長六六五番

合資會社 杉原商店 大邱府元町貳丁目 電話長一六番

永井幸太郎 大邱府錦町 電話一三番

東洋杞柳株式會社 大邱府鳳山町

日の出製藥株式會社 大邱府南龍岡町

內國通運株式會社 大邱支店 大邱府錦町 電話四貳貳番

中原房一 大邱府東雲町 電話二二三番

大邱公立農業學校長 福島百藏

磯貝彥五郎商店 大邱府八雲町 電話四一五番

達城郡廳 吏員一同

大邱產婆看護婦會 大邱府東門町 電話二四三番

大邱運送業組合

材木商 慶榮商會 大邱府錦町二丁目 電話五二一番

肥料問屋 龜石商店 大邱府八雲町 電話三三五番

和洋雜貨商 丸島銃砲店 大邱府東城町 電話三〇三番

木村竹太郎 大邱府元町 電話長六番

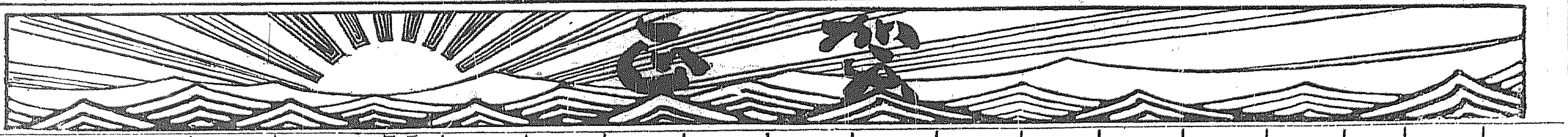
慶尙北道廳 谷幸次郎

內田六郎 大邱府市場町 電話三三番

慶北蠶種合資會社 大邱府東雲町

大邱味噌醬油釀造組合

穀物貿易商 大邱府市場北通 大浦精米所 電話四一七番 振替京城二二六七番



鎭南浦[illegible]協會
延田洋物店 濱田呉服店 岡部洋服店 松岡洋品店 [illegible]

鎭南浦 南浦組 電話三六番

鎭南浦 大和組

鎭南浦 久保組車帳場 電話四一番

鎭南浦 河添鐵工所 電話三六番

鎭南浦 長門組

鎭南浦 丸五運送店 長電話三番

平壤旭町 山村章

平壤壽町 吉田與市

平壤大和町 小山時計店

平壤 丸京呉服店

黄海道鳳山郡廳 職員一同

黄海道沙里院警察署 職員一同

平南大同郡廳 職員一同

平壤水玉里 八洲國屋
同大和町 八洲國屋支店

平壤 丸山理平

平壤宿屋業組合

平壤文具紙印刷同業組合

虔んで元旦の賀辭を申上ぐ
楠野俊成

平壤池町 石崎材木店 長電話二三〇番

平安南道价川驛前 石川旅館

平壤牡丹臺 お牧の茶屋 長電話六一七番

平壤府本町 山崎製麵所

平壤大和町 森田支店藥局 長電話一二九番

平壤山本町 山本洋家具店 長電話二七三番

平壤南門町 野路増吉商店 電話一四七番

平壤警務部長 齋藤金祐

平壤大和町 川俣洋品店 電話六九二番

平壤大和町 三谷活版所 電話五三三番

平壤大和町 宮崎自轉車店 長電話四四番

平壤大和町 藤田時計店 電話八三七番

鎭南浦三和町 宮本商店 長電話二〇五番

鎭南浦警察署長 佐土原岩熊

鎭南浦三和町 池田材木店 長電話三三七番

鎭南浦 汽船會社 長電話二五五番

鎭南浦 上野直記

鎭南浦 水産會社

鎭南浦 富浦商店 電話一二三番

京畿道新安州 柴田黑鉛鑛業所

京畿道安州 中山英男

裡里榮町 回生醫院 電話一六七番

裡里榮町 材木商 那須綱二 電話二三番

むさしの内
藝妓 酌婦
つ園竹な十小小五澄
ば
め玉二葉久郎萩郎墨

裡里榮町 古物商 表具師 娼妓紹介業 佐伯芳太 電話五六番

明月内
仲居
一郡お花つ千笑あと
も ち
代や
勇奴や蝶子香子きみ

裡里幸町 米穀商 山本喜一郎 電話五三番

末廣内
(イロハ順)
仲居
力若政福金光秀しあ
千
鯛代八次太子香もさ

裡里 東本願寺 武内正圓 電話二番

全北實登 片桐農場主 片桐和三 電話六番

裡里幸町 建具指物受負 硝子板雜貨販賣 曾我部佐五郎

裡里驛前 裡里通運合資會社 電話五四番 振替京城二三六八番

裡里市場 土木建築受負 秋山春次 電話一七八番

裡里 土木建築受負 笠利雄

裡里旭町 精米穀商 今井宅治郎 電話二七番

東洋拓殖株式會社 裡里支店 外店員一同

裡里幸町 會席御料理 むさしの 電話一二六番

裡里幸町 會席料理 明月 電話五二番 調理部 野々村幾馬

裡里末廣町 會席御料理 末廣 電話四八番

裡里末廣町 會席御料理 玉の浦 電話五一番 調理部 菅木稲一 渡利徳一

清州本町三丁目 金物雜貨商 原田太喜造 電話三三番

清州本町三丁目 衣服反物 メリヤス類 雜貨 三輪喜六商店

清州本町三丁目 自轉車商 水井勇治郎商店

清州本町三丁目 濱田洋服店

清州藥局 藥劑師 小田剛三 電話一六番

清州本町二丁目 雜貨 高野商店

清州本町 江上商店 電話二三番

清州本町二丁目 野田屋製藥所 電話五一番

清州 上黨金融組合

忠清北道清州慈惠醫院醫官

清州本町 安食石五郎

清州本町 雜貨商 前田商店 電話五二番

御料理仕出し 生そだ 二葉 電話四一番

清州本町 八木謙吉

殖産銀行清州支店 平原保

金融組合聯合會 齋藤清治

清州郵便局長 片山清

清州本町二丁目 明治館 電話二九番

雜貨商 伊藤商店 清州本町 電話六五番

清州本町 酒商 松本商店

教育玩具 日鮮雜貨商 後藤秀吉 ナデンモヤ商店

清州本町三丁目 陶器商 田中商店

清州本町三丁目 彫刻師 正美堂印房 主 田邊務

清州本町 寺田履物商店

内科 小兒科 井手醫院

忠清北道清州 印刷業 齋藤金藏

清州本町局前 清州名産製造本舗 日乃出屋舗 菓子 電話百十二番

清州本町四丁目局前 大和屋洋服店 電話六番

朝鮮忠北清州本町四丁目 樽島商店 電話一〇番

清州本町四丁目 鮮魚 冷氷 日笠秋太郎商店 電話一〇六番

清州本町五丁目 雜貨商 藤田商店 電話二六番

忠北清州本町四丁目 木崎呉服店 電話一三番

清州本町四丁目 小方呉服店 電話二七番

清州本町三丁目 稲本製靴舗 電話一二五番

元山運送業組合

元山仲町 會席御料理 ○よし 電話六二番

元山中學校
元山公立高等女學校
元山公立尋常小學校
元山公立普通學校
職員一同

元山運送業組合
北鮮倉庫株式會社運送部 田村運送店 内國通運株式會社元山支店 マルミツ運送店 元山魚仲買組合運輸部 元興運輸組 永信運送店 協同組運送店 鈴木運送店
吉田運輸株式會社元山出張所 大同運送部 興津運輸店 元山運輸組 元東運送組 賀信運送部 濟藤運輸店 共成運送組 定立運送店

山下黑鉛工業株式會社 永興鑛業所

元山綿糸商組合
貿易商 元山本町二(電話三五三番) 林良作商店
貿易商 元山仲町一(電話二四四番) 岡野商店
貿易商 元山旭町一(電話一〇一番・二〇二番) 龜谷愛助商店
貿易商 元山本町三(電話三五番) 小林儀三郎商店
貿易商 元山府本町六(電話三五九) 大本芳輔商店
株式會社 共盛社出張所

元山酒造業組合
清酒 金泉 金光酒造合資會社 電話二六四番
清酒 元山 元山酒造會社 電話四二番
清酒 天狗印 新谷新七 電話四三八番
清酒 正宗 猪伏合名會社 電話五二一番
關ノ花

元山旅館組合
九州館 赤田屋 巴館 愛媛屋 大津館 大東屋 丸金館 丸屋
山口屋 蔦屋 博多屋 金剛館 三河屋 朝倉屋 富士屋 花屋 大丸旅館

朝鮮ゴム工作所
工場元山府楢洞 電話三八番 營業所同幸町 電話一五三番 振替口座京城五一四六番

元山土曜會
朝鮮銀行元山支店
東洋拓殖株式會社元山支店
殖産銀行元山支店
十八銀行元山支店
元山商業銀行

營業種目
富山縣重要物産ノ委託販賣 肥料賣買
朝鮮沿海州海産物賣買 朝鮮沿海州肥料賣買 北陸航路汽船荷扱
元山府本町一丁目 株式會社 富山貿易商會出張所 電略トヤマ(又)
本店 富山縣伏木町 出張所 清津 浦潮支店

大邱券番

大邱穀物市場

大邱府東本町 料亭 芳千閣 電話一七番

大邱府八雲町 遊廓 第一千芳 電話三五四番

同 遊廓 第二千芳 電話五〇七番

高野豆腐製造卸商 田中龜一郎商店 大邱府七星町六三九 電話七六六 振替一五五四

大邱府上町千代田洋行 諸機械、金物、電氣、自轉車、工具、用品、自動車工業 酒井外次郎 電話長四二五番(店舖用) 長九〇七番(自宅用)

大邱繰綿工場

大邱府元町二丁目 米穀肥料 公債株式 現物賣買 三共商會 新川北星 電話長三三番 七四二・四三番

米、大豆、雜穀、肥料貿易商 松原洋行大邱支店 大邱府元町五丁目 電話長六二七番 三五〇番

大邱旅館組合

大邱府幸町二十二番地 電話長八九番
向島工務所
主任 向島茂市
外店員 各地出張員一同

京城府南大門通三丁目 和洋紙販賣 印刷製本
土佐紙株式會社 京城支店
電話長三二一五番 四三〇〇番 振替口座京城八五九番 電略(トサ)
釜山府立新町 同荷捌所 電話長四二八番

豐國セメント株式會社 京城出張所 主任 吉川宇造 京城南大門通五丁目 電話長六四七番

京城本町一丁目 パイン萬年筆製作所 電話三〇七七番 振替京城五一九四番
市内販賣部 京城本町一丁目京城局前 同 鐘路二丁目
出張所 大邱 館町一丁目

京城府瑞麟洞一三八 (光化門郵便局東門向ひ)
李王職御用達 高等朝鮮料理 宴會席階上階下 五百人收容
海東館 館主 吳世煥 電話五八六番 七二五番
新鮮ナル料理

純人蔘精、人蔘胃腸藥 人蔘福酒、風呂用人蔘 ミツカシワ印人蔘水飴
京城長谷川町五十八番地
本舗 朝鮮製藥合資會社 電話一三〇九番 振替京城三八一〇番

京城太平通一丁目廿九番地 名帥源一郎 電話五九一番

京城岡崎町六九番地 滿鮮工材株式會社 社長 名帥源一郎 電話二七六二番

龍山鐵道病院 京城漢江通十六番地 電話 公衆 四一番

京城大和町一丁目 株式會社 淺野セメント京城出張所 電話長六六二番

少金井芦洲講演

第一八六席

蠣崎殿がお手づから金六へお盃を下される 金『有難う存じます 私は若先生の御勘當さへ許りますれば這那様な嬉しい事はございませぬ 是で藩符を下しだやうな心持ちがいたします、勇氣もありお情もあり、若先生のやうな結構なお方はありませぬ……イエモウ 私は御酒は頂戴いたしませぬ 婦『イヤ金六、左様なことを申さんで飲んで呉れ、其方も以前は酒量家であつたと申すではないか 金『エヘ……何うも大先生恐れ入りました、夫れでは折角の仰でございますから、お職取衆と一緒に御馳走になります 婦『サアく飲んで呉れ 金『有難う存じます』一同の者は十分なる馳走に預かり、金六は相當の手當を貰つて、職取衆にも蠣崎殿が相當のお引出物があつて皆一同喜んで立歸つて仕舞つた、蠣崎殿は大層悦んで伜の腕前が遂々上達するやうにと丹精をして稽古をお付け

なさる、伜五郎も心して稽古をいたすから、モウ此節ではメキメキと腕前が上達をして、十分にお稽古が積んで、劍術と云ひ、柔術と云ひ度胸と云ひお學問と申し、お父さんの跡を襲ぐすると云ふやうな塩梅、數百の御門人に朝から晩まで倦まず撓まずお稽古を丁寧に付けてお遣んなさる御門人の方でも、何うも老先生の方は年を召ていらつしやるから、モウ一つ稽古を付けて貰はうと思つても暇ひ御遠慮を申し上げる氣になるが若先生の方は精力が濃々として、お有んなさるから、稽古を遠慮なく付けて貰へて可いと喜んで、御道場は日にく御盛んになるばかり、蠣崎殿は御道場の方は伜五郎に一切お任せなすつて、御自分は諸家様へお出入をなすつていらつしやる、一六八と云ふやうに日を定めて一の日には御前様のお屋敷へ出稽古に往くとか、六の日には有馬侯、八の日には讃州侯といふやうに日を定めて諸家様へ往らつしやる、されば道々身體がお忙しい、或る日のこと 婦『伴五郎や 伴『ハイ 婦『其方に

急いで信州の松本まで往つて來て貰ひ度いが如何だらう 伴『ハヽア成程 婦『是は私の用事ではない、私のお出入屋敷の御前様から頼まれて松本の或秘密を探る爲だ 伴『ハヽア 婦『尤も是はその御前様が蠣崎殿が是非お前に頼みたいと仰つた、私は年を老つて居るし、迚も其那大任は勤まらんとお斷り申し上げたるところ、然らば其方の弟子の中でも何誰でも可いから心利きたる者を一つ選つて貰ひ度いと斯う仰るのだ 伴『ハヽア成程 婦『宜敷うございますとはお受合ひ申したやうなものゝ サテ道場へ歸つて見れば誰を頼まうと云ふ者もない、道場破りは他人に頼むより寧そ血を分けた伜に……其方に頼んだが安心と心得たから其方に聞くが何うだお前、私の名代になつて信州の松本まで參つて容子を探つて來ては呉れまいか 伴『ハヽ畏まりましてございます 婦『まだ其方も初旅の事であるから、序に善光寺へ

詣り、道場の道場へ立寄つて道々修業をいたして參つたら宜からう 伴『有難う存じます、本來なれば父上のお傍にあつて一刻も餘計御孝道をいたさんければならないでございますが、お父上の御命とあつては是非に及びませぬ、御用命の濟次第早速立戻つて參りますれば、何うぞ暫らくの間お淋しうはございませうが御辛抱を願ひまする 婦『イヤく決して左様な心配をいたさんで可い 伴『然らばお父上、私は是より即刻出立いたしませう 婦『その御用向と申すは是々斯様云々、御前様がお懸念のお家内向を探らうといふのであるから成べく目立たぬやうに心して探つて參りますやうに…… 伴『心得ましてございます……ア高野、長谷川 兩人『ハイ 伴『拙者は是から少し用事があつて信州松本まで參る拙者の留守中はまた何かと拙者に成り代つてお父上の御面倒を見て呉れるやうに、萬一御父上に御異變でもあつたら、道は一本筋であるから、早飛脚なり使なり遣はして呉れるやうに 兩人『畏まりましてございます』

早速旅の用意をいたし 伴『然らばお父上往つて參ります 婦『何分頼む』是が一世の別れにならうと誰が知らうすか伴五郎、何うも阿父さんに別れともない。

川柳 井上剣花坊選 題「戀」

○ 仁川 磐錦
初戀の女房初孫抱いて居り
人間であるから戀をすると云ふ
○ 龍山 田鮭
仙人を落として白い肌なり
○ 元山 一夫
戀愛の結果に出る猫いらず
○ 鳥致院 吹竹
獨り者猫の戀へ石を投げ
淺間山戀の炷を焚き續し
東の間も顏のニキビが氣にかゝり
○ 太平町 源川
戀の擬引も聞えず日も眩み
○ 鳥致院 吹竹
いやらしい話にいつの耳を貸し
○ 龍山 光清
友達もだんくにえる戀の暗
○ 京城 寶六
逢げられぬ戀路に川のへりへ來る
○ 仁川 日射
遊廓の路いたいけな戀をする
○ 釜二浦 乾雨
戀の闇四十の阪に行きなやみ
○ 大和町 赤蜻蛉
初戀に醉へず褄取るふしあはせ
○ 直昌 斗雅
戀無情心中一人生殘り

家庭療法

鯰は腎臓病の藥

春と秋の彼岸の中日またはその前後に獲つた鯰を陰干にして袋に入れて貯へておきます。それを大きければ一尾小さければ二尾を三合の水に入れて一合五勺に煎じたものを腎臓病患者に飲ませます全治した例も少くありません是非試みて御覧なさい。

一月四日

(舊暦十二月七日) ▲水曜日▲壬申▲六白▲暗剣戌亥▲赤口▲箕宿▲成

▼六白▲變化多き日進み過ぎても退き過ぎても後悔する日慎みを要す
▼七赤▲至極穏かな日急らずば八分の利益あり開店旅行求職結婚其他吉
▼八白▲利得と人望とを併せ得べく女子は思はぬ用件の端緒にありつく
▼九紫▲逆轉の日浮氣に乘じて妄進すれば大なる失敗あり新事は見合せ
▼一白▲吉事續出するの日他人の世話事を除く外は凡て何事にも大吉
▼二黒▲慾がなくとも成功すべき日職取引一切上首尾但し散財を誡む
▼三碧▲諸事徒勞に歸し易く無茶苦茶なる事ある日新規の計畫は控目が吉
▼四緑▲周圍何彼と騒々しく利に疎き日寸時も心安らかならず盗難注意
▼五黄▲瑞兆當に顕り諸事大發展の日養子又は養女を定むるにも上々吉

一月五日

(舊暦十二月八日) ▲木曜日▲癸酉▲七赤▲暗剣西方▲先勝▲斗宿▲收

▼七赤▲出過ぎては損する慎みの一字をさへ守れば何事も無事平穏の日
▼八白▲迷ひを去つて務實に働けば幸福自ら來るべき順調の日待人來る
▼九紫▲柔順にして長上の人の引立を受ける婦女子の獨立を圖るにも妙
▼一白▲進むよりは退くに利あり投機娯樂等には慎しむ面白くない日
▼二黒▲得意の絶頂に達する華やかな日開店にも旅行にも婚禮にも大吉
▼三碧▲思ひ違ひから大きな破れを來す日大事は午前中に片付くるが利
▼四緑▲利益に疎く信用を失する日安静すれば紛擾が起る大に自重せよ
▼五黄▲首尾よく目的は達するも散財の多い日職を守りて進退せば無難
▼六白▲紛擾續出諸事抑制せずして好調續しき職服引又は資本を求むる吉

謹賀新年

京釜線大田本町一 紙類 文房具類 函類 高田商店
京釜線大田本町二 菓子製造 藤井商店
京釜線大田本町一 荒物商 田中商店
京釜線大田本町一 化粧品 表類 和洋雜貨 中村商店
京釜線大田驛前 和洋雜貨 田中洋品店
京釜線大田本町一 金物商 齋藤商店
京釜線大田本町一 石工 堀江和作 電話長四〇番
大田魚菜市場 經營者 米元元助 電話二七番
京釜線下田本町 井上齒牙治療所
京釜線大田本町三丁目 矢切頼治 電話四二番
京釜線大田本町二 倉元百一郎
京釜線大田春日町一 塚鐵工場
藥種商 三枝藥店 電話長一五六番
京釜線大田本町二 土木建築請負業 須々木俊次郎
京釜線大田本町一 左官請負業 安藤清江 電話二五四番
京釜線大田本町一 陸軍官衙御用達 田中靴店
京釜線大田榮町 安宅兵太 電話長三七番

群山港濱山町 大正正宗 香吾妻 香原酒場 電話四〇八番
群山港本町 群山通商合資會社 長電話三三三番
群山港 全北水産株式會社 一五番
群山港錦田町 群山酒造株式會社 長電話三二六番
群山港本町 不二商業株式會社 長電話四七番
群山港明治町 谷口旅館 長電話四六番
群山府明治町 群山印刷株式會社 電話五一五番
群山府明治町 群山電氣株式會社 長電話一七番 電話四五七番
全北沃溝郡開井面 大倉農場
群山港全州通 群山運輸株式會社 長電話一四〇番
全北沃溝郡玉山面 高久農場 高橋榮二
全北沃溝郡米面 宮崎農場 場主 宮崎佳太郎
忠南江景 群山協和會
忠南江景 江景電氣株式會社 電話五五番
忠南江景 荒卷農場 荒卷醬油部 長電話一三三番
忠南江景 江景水産株式會社 長電話一〇六番
群山 會席御料理 花月 長電話一五〇番
群山新興洞 赤松醬油釀造場 赤松繁夫 長電話二〇番
公立群山普通學校 井上瀅
全北沃溝金融組合 磯尾卯之助

朝鮮京南鐵道株式會社 社長 長島弘 常務取締役 秋本茂 取締役支配人 立川芳 支配人 神田長平
京釜線天安(イロハ順) 實業組合代表者 金物 大阪屋 津川商店 貿商 上原商店 材木 村上商店 呉服 松尾商店 雜貨 江島商店
京釜線天安驛前 米穀 雜穀 貿易及委託賣買 倉庫業 運送業 百濟商事株式會社
天安本町 かすみ樓
京釜線天安本町 一かすみ 若福 芳子 玉枝 つや
天安驛前 樂亭
天安 東洋齒科醫專出身 口腔手術院
天安本町 みのだ旅館 戸村辨吉
天安驛前 會席料理 大興館
天安郵便局前 伊藤洋服店
朝鮮畜産 成歡 成歡牧場 場主 赤星鐵馬
京釜線天安 朝鮮内地新聞取扱所 堀商會 電話四二番
忠清南道天安 忠清自働車運輸株式會社
禮山 洪城 大川 舒川 端山 出張所
天安 禮山湖西銀行 支店長 成元 副支店長 沈宜
朝鮮密陽 鮎粕漬本舗 熊本屋水産部 豊瀬五三郎

群山商友會 梶太三郎商店 横山與市商店 高瀬支店 中柴萬吉商店 不二興業株式會社 福田又支店 齋藤嗣郎商店 共益社支店 弘津俊一商店 檜垣孫三郎商店
全羅北道群山府 沃溝郡繩叺改良組合 電話四〇二番
大正十二年一月元旦 全北 熊本農場
大阪商船株式會社 群山代理店 長電話一〇番
材木商 大澤商會 長電話一五四番 店主 大澤藤十郎
朝鮮銀行群山支店
十八銀行群山支店
朝鮮殖産銀行群山支店
朝鮮商業銀行群山支店
韓一銀行群山派出所
忠南江景 朝鮮殖産銀行江景支店 韓一銀行江景支店 江景金融組合 彩雲金融組合
群山親商會 渡邊呉服店 鶴屋雜貨店 中井呉服店 矢野呉服店 木村雜貨店
群山曙町 事務所主任 大倉米吉
沃溝郡地境 大倉農場
群山港本町 群山米穀信託株式會社 長電話四五〇番 電話四六九番

京釜線大田春日町 和洋御料理 富士家 電話長五七番

大田學校組合會議員(いろは順)
原孝一 本司義足 木間巽 鉅鹿曉太郎 田原芳助 内藤氏雄 永野廣次 野間義夫 藤井松弌 青山貞治郎

大田面協議員(いろは順)
今井辰次郎 大野與三郎 村尾伊勢松 荒川代吉 末吉定十 須々木權次郎 朴英來 李遠寧

株式會社第一銀行京城支店 京城府南大門通二丁目九番地
株式會社百三十銀行京城支店 京城府本町一丁目十一番地
株式會社十八銀行京城支店 京城府黄金町一丁目三番地
株式會社漢城銀行 京城府南大門通一丁目十四番地
株式會社朝鮮實業銀行 京城府本町二丁目五十一番地
株式會社朝鮮商業銀行 京城府南大門通一丁目十九番地
株式會社韓一銀行 京城府南大門通一丁目四番地

恭賀新年
酸素療器 登録商標
▽邦文 支那文 第十七號實驗例贈呈△
オキシヘーラー
▼オキシヘーラーの效力顯著なる事は使用後か五分間にして三乃至五耗血壓を亢め一時間を繼續せば實に十乃至廿耗の活力を增進す試に血壓計、體溫計、呼吸器を以て驗せば其の調節の狀を明にし各自は脈、呼吸、體溫の整調に依て自覺せらる ▼靈妙なる磁氣應用の本器には附して血液中の酸素吸引力を增し大に健康の元氣を補ふが故に難治の疾病を根治するに空前の偉力を有し論より證據使用者は忽ち軀膚強健となり全身の溫暖、呼吸の深長を感じ次で熟睡、解熱、鎭痛、食慾の亢進、兩便の快通等生理本能を回復するの神速なるは實に天下の奇蹟也
◇正價金參拾五圓 送料 内地金參拾錢 支・朝・滿・樺金六拾五錢
特色一、使用法簡易效力永久不滅にして電池の如く消耗する物にあらざれば器械購入以外永久に何等費用を不要
東京牛込區神樂町二丁目二番地 オキシヘーラー獎勵會 電話番町特長三〇七・四六八九番 振替東京二七七一二番

醇良清酒
謹賀新年
大阪府堺市 釀造元 柴谷合名會社 電話三一番三二番
京城岡崎町 特約店 嶋屋本店 電話九〇三番

攝津灘石崎株式會社釀造

工場ノ一部パルプマシン抄紙室

鴨綠江製紙株式會社全景

鴨綠江製紙株式會社

本店を南滿洲安東縣六道溝に置く資本金五百萬圓内二百萬圓拂込みの鴨綠江製紙株式會社は去る大正九年四月十二日工場其他の工事に着手し爾來一年五ヶ月の間に工費約二百八十五萬圓を投じて去る九月中工事落成し十月一日第一聲の汽笛を揚げ目下盛んに製紙原料パルプの製造中なるが一ヶ月のパルプ生産高は約千二百噸一ヶ年累計生産一萬四千餘噸に達する豫定なるが其の製品は既に内地に輸出せられ各製紙會社工場の製品と伍して遜色なく優に一等品としての價値を認められたり會社の重役は取締役會長大倉喜八郎同副會長大川平三郎常務取締役長谷川太郎吉、取締役門野重九郎、田中榮八郎、式村茂、檜浦健吉諸氏 監査役は 下郷傳平大倉粂馬、藤田好三郎の三氏にて理事中島三代彦氏常に本社にあり凡ての經營を監督し居れり蓋し滿鮮國境鴨綠江畔に於ける木材工業の爲めに萬丈の氣を吐きつゝある一大會社なり

患者總計四萬人に達す

【巴里三十日發】マーエンよりの報道に依ればマーエン及フランクフルトの戰地は目下發疹性流行感冒猖獗を極めマーエンのみにても患者七千名に上り多數は死亡しつゝあり而してフランクフルトにては凡ての

芳山町の火事

二日午前三十分頃府內芳山町百八番地書籍營業使丁林文際方より出火し

滑稽會話　犬千代（上）

阪本富岳講演

○ねえ藤吉、君も僕も同じ尾張の信長公の麾下に付いて、斯うして僕は食祿を食んで奉公をして居る、君が夜詰の場合には僕は御前の詰めをし、君が御前の詰めをして居る時には僕は夜詰をしなけりやアならぬと云ふ譯だ。何しろ應仁以來は亂れて戰國時代、夜詰をすると云つても、又詰をすると云つても少しの油斷が出來ない　藤『ウン、前田の云ふ通り實に物騒千萬な世の中だ、お互にこれぢやア苦勞が絶えないよ　前『そこでだ、別に變つたことぢやアないが一つ君女房を持たんか　藤『何だね前田、家內を持てと云ふ話だよ　藤『可笑しな事を云ふぢやアないか、何も戰國時代で世が亂れて居るのに女房は邪魔であるまい　前『ナニ然うでない、お互に朝から晩まで斯うやつて詰めをして種々と氣苦勞をする、その苦勞を悉皆抜いて呉れるのが女房だよ、アーア草臥れた、疲れた、と歸つて來ると、コレ若らしお召し物をお召替へ遊ばせ、お身體をお拭き遊ばせ、なんて優しい言葉を掛けてな、後からフンワリと着せて呉れる時の愉快さは又他にあるべからずだ　藤『成程　前『實はな、此間僕が女房を貰つたのは知つて居やう　藤『オイ〳〵何だい馬鹿々々しい、僕は天下を統一することばかりと思つたら貴公の惚氣を聞かされる譯だな　前『イヤ然う言ふ譯でも……　……藤『巫山戲なさんな、喃で惚氣を聞かされて堪るものかい何か嬉れ〳〵　前『當るよ、夫ア君の好きな物を當るかの。別に惚氣といふ程でもないが、年が十九で名がお初、顏る付の美い女だら、君も婚禮の晩に立會つて見れた筈だから知つてる　藤『ウン〳〵、君の御面相とは權衡の取れない程の美い女だ　前『所が彼女以上の顏る付が目付かつたので、其奴を君に世話しやうかと思ふのだ、今度はどうあつても貴公に女房を貰つて遣らなきやア俺の氣が濟まぬ、是非貰つて呉れ給へ、僕の見込んだ女だ君が一目見たらトロ〳〵ッと蛇度なる女だぜ　藤『オヤ〳〵馬鹿に持上げるね、其女と言ふのは何處の何と申す者だ　前『然り〳〵女の名前だが、お菊と申すんだ清洲の城下本町足輕五十貫、相良六太夫と云ふ者の娘で、年は十八水氣タップリてな所だ。どうだ聞いたばかりでポーッと惚るだらう』此時木下藤吉郎暫らく考へて居りましたが首を樹に振つて　藤『前田君、僕はまだ女房を貰ふ年ぢやアない、緣と言つた所が二十八石三人扶持、迚も女房を貰つた所で食はせることが出來やアしない　前『イヤサ、其處だよ一人口は食へないが、二人口は食へると云ふ、況んや二十八石三人扶持だ、是だけ付いて居たらば大丈夫貰つたが良からう、兎に角一遍見合をしたら何うだ、俺が媒酌人口を利く譯ではないが、夫ア非常に素敵なもんだよ、お菊と云ふ女は今の間に貰つて置かんけりやア、お前のやうな猩面をした男は容易に良緣はないぜ　藤『おい前田猩面とは酷いや、何とか別に言ひやうがあるだらう、僕が猩面なら君ア犬面だ　前『怒んなよ藤吉君　藤『イヤ怒る譯ぢやアないが、途りなことを云ふから斯然う言ひたくなるんだ、ナニ怒んな顏をしてゐてもな、又お前とならば何所にでも、縱令山又其處の奧山の白綸緞の中までも　前『アレ藤吉殿逆上やアがつたな、貴公は、女の話を言ふと其通りだ、だからさ早く貰へといふのだ　藤『まア何と言つても來る時にやア來るから夫れまで待たう、萬更僕の所だつて捨たものでもあるまい　前『イヤサ、夫れは君の自惚れと言ふもの、迚も君なんぞは他人が骨を折らなければ、配偶者では女房に來る者はない、貰つて置け〳〵惡いことはいはないから』と再三再四言はれて木下藤吉郎、身は清洲の城下に於て僅たお長屋を頂戴して居る信長公の家來、草履取りから成り立つた身分で、迚も女房にならうと言ふ人はございません、前田犬千代が同役で始終苦勞を共に致してゐる所から、頻りに是を心配いたして。右のお菊といふ女を推薦したのであります。藤吉郎と云ふ人は末に至つては淀君とか、乃至大政所だとか、頗る天下中臈の美人を集めて居りますが、夫れは關白太政大臣となつた暁の話で、此當時は未だ色氣よりも喰氣、立身出世の慾一方にのみ走つて居りましたから別段婦人と言ふやうな事に就て何等の考へもなかつたのであります。然し度々犬千代に言はれるので木下藤吉郎も　藤『それではどうか前田君良いやうにお願ひ申します』と言ふ事で、話が旨く纏まり、清洲の城下外れに小屋なる家を求め、犬千代が媒酌人となつてお菊が嫁入りすることゝなり、田作の二尾も列べてホンの水の這入つた酒で盃を致すやうな事になりました。所がこのお菊と云ふ婦人は今で言ふ非常に虚榮に富んだ女で、一寸金華山岐阜の城下とか或は清洲の城下を歩いても、織田殿の御成り、紋先箱鎗毛二本道具、立派やかなる行列に眼を驚かし、或は德川三河守家康等の行列を見る度に、熟々自分の亭主の腑甲斐なさを感ぜずには居られなかつた。向ふは乘物で家來が六百人位附添つて歩くのに自分の亭主は信長公の御供をして僅に家來の三四人位しか附いて居ない。城下で行き會つても自分の亭主の腑甲斐なさが念頭から去らない、夫や是やのことからして、元來虚榮に勝つたお菊に於ては、斯うやつて末々迄添つて居た所が迚も浮ぶ瀬がないものと思つたか、或日の事藤吉郎に向ひ　菊『モシ藤吉さん　藤『何んだ　菊『私はお前さんと斯うやつて緣があつて一緒にはなつたやうなもの丶、どうもお前さんの女房として、生涯添つては居られないと思ひます　藤『そりや又どう言ふ譯だ　菊『どう言ふ譯も斯う云ふ譯もありませぬ。私は斯うやつて一生懸命に洗ひ洗濯賃仕事なんぞをして少し宛でも稼いで居りますけれども何分百石足らずの收入ではこの物價騰貴の苦しい世の中で、どうしてもやつて行くことが出來ませぬ。夫れに前田犬千代さんが媒酌人をして下すつた時に、藤吉と云ふ奴は實に偉い奴だ、織田上總介信長公の御意に召して、末は必ず柴田勝家殿や丹羽長秀殿を向へ廻して爭はうと言ふ人物になる、と言ふやうなお話でありましたが、とうして〳〵柴田樣は越前の北の庄で六十餘萬石、丹羽樣は岐阜の金華山で十八萬石五千石、夫にお前さんは漸く百石足らず、目方にも掛らないやうな祿を頂いて在つしやる、迚も末の見込が無いから綺麗に緣を切つて貰ひたい　藤『えゝつ　菊『私は何も瘋高に惚れて嫁に來たのではありませぬ、お前さんの人物を見込んで參つたのでございます、だが其人物を見込んで參つたものの、朝な夕なにお前さんの樣子を見てゐると、他の御家來は四ッ頃にお出でになつて七ッ頃にはお歸りになります、夫れにお前さんは明六ッに出て夜の四ッでなければ宅へ歸つて來たことはない、而うして見ると、お前さんは餘程身分の卑い辛い勤めをなすつてお居でだらうと私は考へます、然んな亭主と迚も一緒には居られないから、どうか今日限り私を離緣なすつて下さいまし　藤『オイ〳〵お菊何を巫山戲た事を云ふ、夫れでは何か、貴樣の考では遲く出て早く歸つたものは勤めが上だ、早く出て遲く歸るから勤めが下と申すのだな、ウム一何にも知らない人間は左樣思ふだらうよ、だがお菊、夫りア大變な間違ひだぜ、藤吉應仁以來の戰國時代、あの大亂を承けてお互に明日をも知れないこの命、斯うやつて千軍萬馬の中を往來致して居る、遲く出て早く歸る奴は夫ア自由勝手だ、俺は信長公の草履取りから成上り、漸く十分に取立てられ、三人でも四人でも家來を附けるやうな身分になつたのは、皆なこれ信長公の御恩である、夫れを思へばこそ斯うやつて人樣の勤めの時間よりモット早く、人樣の歸るのよりはモット遲く勤めて居るのだ、成程お前は身分が輕い〳〵と言ふか、左樣に物事は容易なものぢやアない一歩〳〵だ、順に進んで行かないで一飛びに飛ばうとすると兎角縮尻勝ちだ、然んな事を云はずにな、モウ十年も辛抱をして、俺のする事を見て居れよ　菊『否え夫れは不可ませんお前さんのする事をノンベンだらりと此儘十年も二十年も眺めて居る事は出來ませぬ、御覽なさい、第一犬千代樣はどうです、あゝやつて私とお前さんの仲を結んで下すつた時から見ると二百石の御加增、夫れにお前さんは僅五十石の加增だけではありませんか、夫れではテンで取組が出來ない譯で　藤『サア其處だ、成程前田と云ふ奴は中々偉い、夫れは確かに俺なんか及ばないが、然しお前は知るまいが大器晩成と言ふ文句がある　菊『何んです其大器晩成と云ふのは　藤『イヤサ、お前に一々言ふた所で其文句は分るまいが、大器晩成と云ふ事があるからまア〳〵前田の出世と俺の出世とを末に行つて見比べて見い　菊『そんな事を言つたつて藤吉さん駄目です、お前さんは尾張中村の彌助さんの倅、前田さんも同じ尾張の智多郡前田の百姓で彌助さんの倅、同じ百姓の家から出て前田さんの方はお前さんの食祿から見れば倍以上である所を見れば、お前さんは始終犬千代さんの跡に尾いて行かなければなりませぬ、駄目です〳〵、どうしても私は暇を貰ひます夫れは私が嫁に來た時から見れば丁度倍以上の出世ではありますが、今戰國の世の中に、三年も五年も經行をして、僅五十貫や八十貫の御出世では行末が思はれます、お前さんの所に來た時指輪代りに差上げた大黒天の鍋のお像、あれを返して下さい　藤『成程然うお前が俺に愛想を吐かすのならば返しても遣らう、暇も遣らう、が然しお菊跡で恨むなよ、後悔は昔から前に立たずと申してな、跡で恨むなよ、俺がグッと出世をした暁に、アー飛んだ事をした、藤吉さん、どうか元へ戻して下さいと言つたつて、俺は昔樣を戾して遣さないから、其積りで居ろ　菊『元談言つちやア不可ませぬ、ねえ藤吉さん然んな事は百年二百年後の事で、若し私の生てる間に然んな事があつたらお目にも掛りませう　藤『諾し〳〵然らば暇を遣る、お前が結納の代りに持つて來た大黒天の鍋のお像も又俺が拵へてやつた杉の簞笥も、皆なお前に遣らう、夫れから姿見、鏡臺、勸工場で買つて來た奴もお前に遣る、何んでも良いからお前の欲しいものは皆な持つて行け、決して俺には未練はないイヤ、俺に未練がないのぢやアない、俺は未練があるけれども、お前が俺に未練を遺さないのだから仕方がない、俺も未練を云ふまい、サア〳〵お前に拵へてやつたものは殘らず遣る、釜の下の灰まで持つて行け　菊『アー然ですか、夫れぢやアまア遠慮せずに皆な貰いて參ります』と御車を引つ張つて來て殘らずに積込　菊『ハー藤吉さん左樣なら御機嫌宜しう、モジ潔い氣さんどうか急いてやつて下さいな』醜い奴があるものだ。木下藤吉郎を置き去りにして、釜の下の灰まで紙屑紙に包んでエンサホイ〳〵と去つて仕舞つた

（下）

其後二十年ばかり經ち、時は天正五年六月の二十日、京都本能寺に於て主君織田信長公が敢なき御最期、續いて天下は亂麻の如くに亂れて、山崎の一戰、折角中國征伐に向つて居た羽柴筑前守秀吉公が、毛利と和睦をなし、天王山の一戰に見事打勝つて天下を統一した。續いては總ての諸侯を畏服せしめて關白太政大臣從二位豐臣秀吉、功成つて大阪石山本願寺の跡に築たのが難攻不落の大阪城、淀君を妾とし、大政所を本妻として、朝鮮に手入れを爲さんとする。其前の年天下は統一されモウ少しも心配をすることはない。是から少し鬱氣に暮さうと云ふ時に秀吉が前田加賀守利家を召して　秀『さて前田殿、お互に其昔清洲の城下で、僅な食祿を貰つて居た仲だ。夫れが御身は大老の要職を占め前田大納言利家、某は幸ひにして關白太政大臣秀吉と相成つた、茶も千利休に教へて貰つて飽きた、醍醐の花見も既に古い、堺の妙國寺の蘇鐵を眺めて茶を入れるのもモウ飽きた、何か他に良い面白さうな遊びはないかしら』斯う云つた時に、利家が　利『恐れ乍ら殿下に申上げまする、成程殿下は尾張國愛知郡中村の御出生、某も犬山の出生、同じく信長公に仕へ奉つて居りました、幸ひに天運を得くして今日の榮位を得ることが出來ましたが、殿下は未だ一度も故郷中村の地へ足をお運びにならぬやうにお見受け申しまするされば、故郷に錦を飾る思召しはござりますまいか手前もまだ聊か其事は考へ居りまするなれど、戰國の爲に日一日を今日まで其暇もなく延び〳〵で參りましたが、今は早や世は泰平と相成り、草も揃かぬ程の御威光、久し振りにて故郷中村へ歸られ、昔の茅の小屋間擾はお互に叱言を食つた老人等に會つて昔物語りを遊ばして如何でござりませう』秀吉是を聞いて膝と膝を打ち　秀『アーいや夫れは面白い事であらう、然らば早速尾張國へ歸つて見やうから支度を致すやうに』そこで秀吉公の御家來方、石田治部少輔三成、加藤主計頭清正、福島左衞門太夫正則、小西攝津守行長、加藤左馬守嘉明、其他の者を從へて、此度尾張國御巡遊と言ふお觸れ出し各自五十萬石から百萬石の大名がお供の事故、其他が千人から千五百人大名の數が約二十八頭、三百五十五人の人數が附添ひ秀吉は牛車に乘つて尾張國を廻る事になつた。然し流石に秀吉公、尾張の清洲の城下手前まで來ると、ピッタと其格式を止めて總て故郷に這入る時は昔の儘と云ふ事にして、一同清洲の二里手前に於て宿割を定める館に清洲の城下に這入つたのは前田犬千代の供、堀尾秀吉の供、是だけでありまずからして、人數は約千五百人程でありまず持つて來た紅白を散らして昔叱言を言はれた老人、或は嫁はつた寺小屋の師匠、又は近邊の百姓手習ひ友達夫れ等を招んで只今で言へば寄遊し美盡した饗應を致しました。故郷に錦を飾ると昔く一口に言ふけれども、同じ錦を飾るにしても其處に階級がある。秀吉は尾張の中村から出て、清洲の城下に足輕藤吉公をいたし後に關白太政大臣になり、三十年振りで歸つたと云ふ、此位故郷に錦を飾れば先づ申分はありますまい、原首相は盛岡で生れ、東京へ出て內閣總理大臣政友會總裁となつて、昨年十一月四日に、東京驛頭に不慮の災禍に遭ひ、空しく故郷の土と化して仕舞つたが、無論是も立派に故郷に錦を飾つた一人であります。然し老あるのは是非はない所であります。へて見れば秀吉は關白太政大臣とまで相成り、今故郷で是だけの豪遊が極めると言ふ、是とは餘程の賑ひが清洲の城下本町の今大通りを牛車で、白黑撚り分けの手綱を掛けて車上に衣冠束帶でお坐りになつた太政大臣秀吉の姿を、道行く數萬の人達が見送つて居りましたが、其中からばら〳〵ばらと飛出した一人の婦人此相好を變へて秀吉の牛車に飛上り、束帶の袖に取り縋つて　女『モシ藤吉さんまア濟まない事をいたしましたねえ藤吉さんどうか元々通りに撚りを戾して下さいな、後生ですから……昔の通りに女房にして下さいまし』と金切聲を絞り出して四邊構はず斯う叫んだ。秀吉公是を御覽ぜられ、秀『コレ何者ぢや其方は……』と冷かに見下ずを、件の婦人は狂氣の如く　女『エー藤吉さんお菊です、ねえ藤吉さんどうか昔の通りに撚りを戾して下さいな、お菊です、許して下さい藤吉さん……』と秀吉の腕に縋るを、左右に居竝んで行列を周いて居た人々が見て扨は狂人だなと打擲

大納言利家、前田犬千代此態を見て暫く行列を止めさせ、前の牛車も是を止めて　利『アー是りや、何者ぢや其方は、畏多くも關白殿下秀吉公に向つて無禮を致すな、斯る無禮を働くに於ては、其身八裂き手裂きは免れぬ事控へ居らうぞ　女『オヽ、お前さんは犬さんか、モーシ犬さん然んな事云はずにお前さんが媒酌人ぢやアありませんか、どうか元々通り藤吉さんに添はしてやつて下さいな、モ一度撚りを戾して下さいねえ犬さん　利『コレ無作法千萬に拙者に向つて犬さんとは何んだ、忝くも加能越三ヶ國の國主前田大納言利家であるぞ、其の利家に向つて犬さんとは不埒至極な奴、早く立去れ、立去らぬに於ては手は見せぬぞ』既に刀の柄に手を掛けんとした時、お菊に於ては　菊『まア然んなに威張るものではありませぬ、犬さんはお前さん擢んで下すつた此のお婿さん、男は惡しききはなし、一時の迷ひから暇を貰はうと、お前さんに歸つた私、御常人も承知して下さるし、お前さんに承知をして下すつて、今ではお百姓で漸く小作を作つて居る八兵衞の妻食ふや食はずに居りまする、所へ昔の亭主が天下を取つた關白秀吉、關白太政大臣、夫れも遠く離れて居るなら兎にも角、今度斯うして久し振りにてお顏を拜んだ事なれば、昔の事を思はれて、どうか撚りを戾して戴きたいと思ひます、幸ひ貰ふた八兵衞も一昨年死にました事故に是がお願ひでございます　利『イヤ退れ〳〵、何れ後程宜く話をするから非禮を退れ』牛車から無理に引下してお菊を傍らの留屋へ預け兎にも角にも秀吉の行列を通して仕舞ひ、後で立戾つて參つた利家がお菊に向ひ、利『コレお菊何んで貴樣は彼のやうな狼藉を致した、拙者が媒酌人となつて貰つてやつた彼の藤吉に何んで文句があらう、夫を其方が男は惡し、働きが無い、どうか離緣をさして呉れろ、と言ふたに依つて此方が離緣を致したのである、然るに其藤吉郎が天下を統一いたし、關白太政大臣從一位、而も朝廷より關白の地位をまで賜はつたのである　菊『ハイ然し何も彼も私が惡いのでございます、何しろ彼の通りの御面相、人さんが御體裁良く諦めて居らつしやるのに、彼の人ばつかりは嫺婚い間から出て、夜遲くならなければりやア歸つて來ない、然し此分ぢやア何ちよりはモット下の役をして居るに違ひない加之に酒は呑まず美味物も食ずと言つて祿は少し、女房には少しも構はず、唯主君大事と言ひますけれども餘りと言へば夫婦の愛情が無いやうに思ひましたので、遂お前さんに飛んだ御厄介を掛けて離緣をして貰つたのでございます。今となつて考へて見りやア飢鬱に私の損見違ひ、どうか犬さん元々通り撚りを戾して下さいまし　利『イヤ成程お前の言ふ所は道理だ、然し今となつて左樣に申しても夫れは出來ぬ相談だ　菊『えッ、夫れではどうあつても出來ぬと云ふので　利『ウムあの當時爭はくお前に申したではないか、後悔は決して前に立つものではないと　菊『左樣で　利『兎にも角にも此の鏡を良く檢めて見るがよい、斯く美しく磨き上げた此鏡、少しも若れず曇らず實に澄渡つた秋の空の如く、見るからに心も滿々するであらう　菊『ハイ　利『此の美しき鏡も一朝斯くの如くなれば』と言ふや火鉢の角でガチリと叩き割り、沸いて居たお湯を鏡の上に注いで　利『コレ見ろお菊、今割りしこの鏡、昔の如くお前の願が滿足に戻るか、如何に修理せんとしても昔に返らず、是を溶かして再び磨きを掛けざれば難いこと、即ち溶かして磨きを掛けると言ふ事は生還つて又の世に出る事を意味するのぢや、又盆の上にこぼしたる此の水も、再び是を元へ戻すことは出來るものではない、所謂破鏡再び照らず、覆水盆に還らずだ、お前が運を取り損ねたのであるから自業自得、諦めるがよい一旦破緣を申込んだ以上は彼の良人藤吉郎秀吉、假令撚りを戾すにせよ昔の愛があるべき譯ではない、良いかお菊分つたか』噛んで含めるやうに言はれて彼のお菊も、今更ながら己の淺膚を覺りてか、目に一杯の涙を湛へて　菊『アー分りました、私が惡うございました、夫れでは藤吉さんに宜しく、私は是で御暇れます　利『コレ〳〵待てお菊』『ハイ　利『其代りお前に土産を遣はす、サ、お前には千五百石摺み取りの納めなし、拙者が好きに計らうに依つて、是はお前の老後の樂しみに遣はす　菊『ハイ　利『清洲の城下二里離れたる聯ち此地面、此所を八町四方お前に遣はすに依つて、生涯是で暮すが良い　菊『ハイ有難う存じます』斯う言ふ事で前田犬千代が己れ自身、殿下秀吉に諮らずしてお菊の住居八町四方の地面を彼女へ與へたのであります。利家は暫くお菊を納得せしめて秀吉の前に至り　利『イヤ殿下、實にあの時は驚りましたよ、殿下が昔嚫きがなかつた爲に、お菊が愛想を吐かして離緣を遣つたのでありますが、今殿下の御樣子を見て急に元の鞘へ納めて與れ、女房にならして與れろつて泣き附かれた時は、何と言つて答へて好いやら、實に困り仕りました、其代り手切れの印として彼所の地面を八町四方彼に遣はしました、あらん限り作り取り納めなしと斯う云ふ事にして四方に緣杭を打つてやりました　秀『ホヽー夫れは前田殿どうも忝ない、ウム！在りし昔の事共を思へば、お互に夢の如ぢや、現ぢや、信長公の草履を取りし昔が戀しい、喃犬千代殿、私は思はず涙が溢れて胸が詰るのぢや』と斯う云はれて暫しが程は淒涙止め得なかつたと云ふ事でありました。ヱー滑稽會話犬千代と云ふ一席是にて御免を蒙ります。

新年吟

土曜會

○元日や仔狗の頸環新しき　聽平
犬撫でて若水汲みに行く女　紫水
○初鳴の犬愛らしき名當かな
禮者來る毎に仔犬の纏れけり　鵜仙
○致娘の羽子に戲れつく小狗かな
野良狗も食ひ足りにけり松の內　兀樂天
○萬歲の舞込む門やブルドック
屋敷町お降りに更けて犬吠ゆる　麥風
○雜煮餅食うて狗顏しがめけり
廻禮や犬に吠えられて廻り道　淺子
○お降りや狗じやれて汚す客の下駄
ブルドック鳥追よけて通りけり　兎耳
○追羽根の振袖にからむ仔犬かな
元朝や狗子佛性の有りや無し　殘餞
○よろ〳〵と犬に賀辭申す男かな
鬪雞に犬の尿や日はうらら　盆花
○初明や狗戲るゝ御所の庭
條に落つる手毬くはへて走る狗

謹賀新年

大田第三大隊附　將校一同

大田料理屋組合（いろは）
いろは樓　筑紫樓　花月樓　大和樓　天川龍　京末樓　敷島樓　肥高樓　醉月樓

理想の食料品現はる　滋養豊富と價格低廉
用滷式　ピタミンパン
京釜線大田春日町一ノ七九　大田製造所

京釜線大田　御案所改良組　大田購買組合　電話長二四四番

專賣局　大田出張所　職員一同

京釜線大田本町　日本生命株式會社　大田出張所　電話長二一九番

滿鐵社員大田在勤　松田一雄　高城榮彥　武下立誠

東洋拓殖株式會社大田支店　坂本宮次　木村信太郎　荻原信雄　清水久一郎

京釜線大田春日町　和洋御料理　荒川樓　電話長一〇三番

大田郡廳　伊關重俊　豐田重一　中嶋鹿一

京釜線大田春日町一丁目　貿易雜貨商　三重商會　佐治修三　電話一一三番　電略ミヱ

大田電氣株式會社長　古谷虎雄　電話長一八番

京釜線大田驛前　大田運送合資會社　山北貞助　電話長二八番

大田中學校職員一同

京釜線大田本町二　醸元正宗　中尾酒造場　電話五四番

京釜線大田　郡是農場　電話長二〇五番

京釜線大田本町漢銀大田支店横　臺所改良の魁　大田廉賣所

東洋拓殖株式會社大田支店　電話長一六五・一七番
株式會社朝鮮殖產銀行大田支店　電話長四三番
株式會社漢城銀行大田支店　電話長二三番
朝鮮興業株式會社大田管理所　電話長四八番
日海興業株式會社大田支店　電話長一七番
大田皮革株式會社　電話長一三四番
大田電氣株式會社　電話長一四二番
大正起業株式會社大田支店　電話長一〇七番
東洋畜產興業株式會社大田出張店　電話長一三一番
忠淸煙草元賣捌株式會社　電話長一四六番
株式會社大田鐵工所　電話長一六三番
大田金融組合　電話二二五番
懷德金融組合　電話二六四番

大田材木商組合（いろは順）
上田材木店　電話長二一六番
富士材木店　電話長一一六番
明田材木店　電話長三六番
新京材木店　電話長一三一番

汽車時間

謹賀新年

公ガ一般機械器具 針油部分品卸賣 スミス萬年筆本舗 各種萬年筆販賣修繕 眼鏡其他雜貨
京城鍾路二丁目二十七番地
楠商店
電話二三三八番 振替京城一三〇〇番

謹賀新年
京城本町三 京劇裏 ゑらぎ屋京染店

京城旭町一丁目
沖の家
電話一八六〇番 仲吉

各國時計 金銀眼鏡 寶石指環 美術寫眞 貴金屬商
京城本町二丁目
平井勤資堂
電話二三一番 振替京城二六〇一番

教育玩具卸商
京城南大門市場
伊東獼市
電話三三四〇番 振替京城三七〇四五番

京城明治町二丁目七九番
電話ブーカ
安部隼人
電話一四〇四番

京城本町二ノ八七
梅の家
電話七三五番

京城本町二丁目
ダリヤ
電話二八九四番

京城南大門通二丁目
雜貨 化粧品 メリヤス 卸部
瀨戶勝兵衛商店
電話二一七番 振替口座京城二四〇一番 電信略號(セ)又(セ)

御料理 平壤牛肉 スキヤキ
京城明治町一丁目
末廣
電話一六六二番

私立京城女子技藝學校長
井上要二
外職員一同

東洋拓殖株式會社特約店
醫療器物品賣込業
香月商店
電話一九五二番 振替口座京城四八四六番 （京城明治町一丁目四八）

京城府元町一丁目九十三
桐材 履物卸商
東屋履物店
池田源助

京城明治町二丁目
橋爪藥房

京城本町二丁目
向井時計店
電話二四二五番

株式現物 現信 京取
出合品多數 御照會至急御求め願ふ
黃金町三丁目
花田商店
電話一七三八番

京城明治町二丁目
小林靴店
電話二五五五番

京城府黃金町四ノ一〇二
荷福仁助
電話一〇〇九番

煙草專賣局 平壤支局

平壤賑町
藤乃家
電話四三九番

平壤炭礦線勝湖里
今村運送店
振替口座京城五六五八 電信略號〇イ

土木建築請負業
久保瀧次
平壤炭礦線勝湖里

新年の御よろこび芽出度く申納め候
大正十一年一月元日
平壤府山手町
旅館 **柳屋**
長距離電話二〇六番 電話八二〇番

鎭南浦
銀行團

專賣局全州支局
職員有志

全州遊廓組合
東樂樓 一葉樓 二支店 水月樓 愛媛樓 秋月館 金花樓 大成館 一閑亭

全州木曜會有志

全北參禮
中工組
參禮出張所

全北益山郡大場村
今村農場

全州慈惠醫院
職員一同

全北任實郡廳
李東漢
伊集院兼吉
城市豐藏

全北全州大和町
南門精米所
全北參禮
參禮精米所

全州高等普通學校
高木善人

全州本町三丁目
後藤生七郎
電話長一五番

穀物商 貿易商
大邱府元町壹丁目
大正商會
電話八二〇・六四二・六三〇番

穀物 貿易
大邱府錦町
光成友三郎商店
電話五五〇、六〇〇、六五〇番 市場特設電話七二二番

朝鮮銀行大邱支店
東拓會社大邱支店
殖産銀行大邱支店
漢城銀行大邱支店
鮮南銀行
大邱銀行
慶一銀行
慶商共立銀行

大邱醫師會

大邱精米株式會社
大邱府錦町二丁目 電話長六五三番

組 **大邱製絲所**
片倉製絲紡績株式會社大邱製絲所
朝鮮生絲株式會社

難波穀物商店
海州南本町 電話一八二番

黃海道知事
朴重陽

黃海道廳在勤
高等官一同

中島安邦法律事務所
海州南本町

海州電氣株式會社
電話一六六番

海州郵便局職員一同
家庭貯金の御勸め致します

味噌醬油釀造元 和洋酒雜貨販賣
海州待鳥本店
電話二二番 待鳥沙里院支店

樋口金物商店
海州南本町 電話六一番

海州勞働共濟組合
海州南本町 電話三六番

朝鮮郵船株式會社取扱店
海州出張所
海州北本町 電話六七番

和洋紙類 文房具 活版印刷 諸官衙御用達業
金港堂
電話一五番

海州北本町
木村時計店
電話六〇番

清水溫泉
海州本町

海州中町
山上醫院
電話四三番

和洋菓子製造販賣
菊池商店
海州南本町

日鮮雜貨卸商
海州南本町
萬代龍助
電話二九番

運送業協同組合海州出張所
電話五二番

海州監獄職員一同

黃海道慈惠醫院
西村守三

海州雜貨商組合

土管煉瓦瓦類一式製造販賣元
榊原喜三郎
海州南門外

海州公立農業學校職員一同

龍岡溫泉旅館組合
姜崔李吳李張李金崔任吳李
泰聖桂茂瓊宗承春應致觀養
周柱實陟哲河洽九浩範信根

朝鮮電氣興業株式會社
長距離電話三四四番 電話八四九番

片倉株式會社
鎭南浦出張所
自動車部
電話四二四番

朝鮮平壤櫻町三番地
朝鮮商工株式會社

朝鮮天然氷株式會社

朝鮮各道特有物産販賣 府軍需品御用達
京城南大門通三丁目九七
富田商會
長距離電話三三〇九番
京城本町二丁目 富田出張店 小賣部
長距離電話五四番

西洋雜貨 絹物 毛織類 唐麵販賣商
同順泰
京城黃金町二丁目九番地 電話二〇二一番

京城漢江通一二
組 **支店**
電話一五七番

京城本町二丁目三番地
各色粉末水溶實用インキ製造發賣元
伊藤商店
電話四〇番

中嶋印刷所
京城旭町一ノ一八五 電話二一〇八番

洋服帽子附屬品
山崎久治郎
京城北米倉町一番地（公會堂前） 電略(ヤ)又八(ヤマ) 振替口座京城一五七八番

帝國公債株式會社
京城黃金町二丁目 電話二五三四番

日華木材株式會社
京城黃金町一丁目 電話一〇六六番

京城本町二丁目
巴城館
電話長三一番 五〇七番

京城旭町二丁目
不知火旅館
電話三三番 長七一九番

京城南山町二丁目
天眞樓
電話六四九番 長七三三番

京城本町二丁目
山本旅館
室內電話あり
電話長三五番 三六番

京城本町一丁目
清光館
電話一三五〇番

京城本町二丁目
浦尾旅館
電話長一〇三番 一一七番

京城電業會員

- 泉商會 京城北米倉町
- 伊藤電機商會 京城本町五丁目
- 東京電氣出張所 京城若草町
- 大富商會 京城南山町二丁目
- 大倉商事會社 京城大和町二丁目
- 大町商會 京城明治町一丁目
- 加藤商會 京城明治町二丁目
- 川北企業社出張所 京城黃金町二丁目
- 高島組電氣部 京城明治町二丁目
- 越田電氣商會 京城本町一丁目
- 神戶京城出張所 京城若草町
- 日置商會 京城長谷川町
- 木村商會 京城南大門通五丁目
- ミツバ商會 京城本町三丁目
- 御手洗曉一 京城本町三丁目
- 城南商會 京城元町一丁目
- 白上商店 京城南山町二丁目
- 白神洋行 京城蓬萊町
- 山陸電氣商會 京城黃金町三丁目

京城府岡崎町
醬油釀造元 美やこ味噌製造元 諸漬物製造元
嶋屋本店
電話長二九 三〇三番
販賣部 市內北米倉町 三〇番
支店 京城天眞樓

京城府黃金町二丁目一九五番地
朝鮮森林鐵道株式會社
電話 三三〇 事務室 三四〇 重役室